公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成25年 12月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻540号

ハンドボール

特集
2019女子世界選手権 日本開催決まる
第68回国民体育大会
第5回女子ユースアジア選手権

12
DEC.2013 No.540





[表紙写真] 第68回国民体育大会、少年男子優勝・岩手の安倍竜之介選手(左)、少年女子優勝・香川の谷華花選手：写真提供・スポーツイベント社

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

U-12のゲーム様式について



公益財団法人 日本ハンドボール協会指導普及本部長 角 紘昭

NTSの一貫指導の内容で特にU-12の段階については、強化、指導、普及の各分野で2004年より検討を進めてきました。

その検討内容は、ハンドボール競技の在り方、世界のゲームスタイルの動向、日本のハンドボールスタイル、ハンドボールゲームをより楽しみ普及させるための指導法等々の洗い出しでした。そして、NTSの内容検討を中心に、U-12のための具体的な指導方法を、「For Kids」(2004年NTS・指導委員会)・「エンジョイハンドボール」(06年小学生委員会)・「エンジョイハンドボール2」(07年小学生委員会)・「個人スキルトレーニング金・銀・銅」(09年NTS・指導委員会)・「U-12全国指導者研修会」(10年〜NTS・指導委員会)等々を通して全国の指導者のみなさんに提案してきました。

その間3回のオリンピックアジア予選や各カテゴリーの国際大会を経験しながら日本のハンドボールが今一歩の成果を出せないことに日本協会として無念さと責任を感じてきました。それと同時にU-12,16の基礎基本技術習得の徹底を図ることが喫緊の課題であるとの認識に立ち、2012年には強化・指導・審判・小学生の各専門委員会のメンバーからなる「U-12ゲーム検討委員会」を立ち上げ、

・正確な基礎基本の技術の習得　・正確で素早い判断力、多面的能力の養成

・ハンドボールにおける広がりと奥行きの感覚の養成　・1対1の強さの養成

を具現化するゲーム様式のあり方を検討しました。

合わせて2012年度のコーチ・レフェリーシンポジュームにはクラウス・フェルドマン氏(IHFインストラクター)を招聘し、国際的なハンドボール一貫指導の考え方、U-12における具体的な指導法等々について講習会を実施しました。

その結果、U-12の時期にハンドボールの魅力を味あわせるために、また、ハンドボールの基礎的基本的な技術を身につけさせるためにU-12のゲームの新しい様式の実施することにいたしました。新しい様式の概要は次の3点です。

1、3セット制:1セット8分での総得点で勝敗を決する。

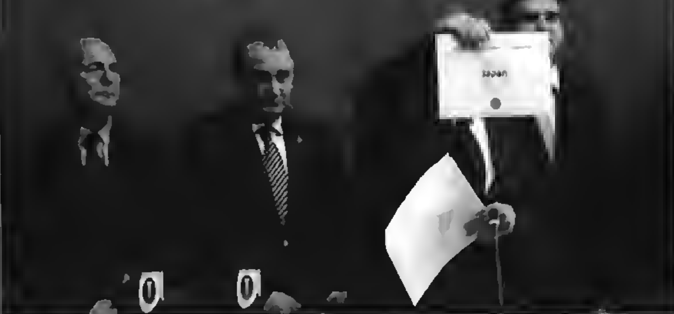
2、ゲームはキーパーからのスローで始まる。

3、ディフェンスは、原則として自陣9Mラインエリアの外側で守る。
ただし、マークしているオフェンスが9Mラインエリア内に入った場合、あるいは入ろうとした場合はこの限りではない。

これまでの経緯を踏まえ、これから進めて行くU-12のゲーム様式は日本のハンドボールをさらに広め、かつ世界に伍してゆくためのねらいを持ったものです。このことを全国の指導者の方は十分に理解していただき、明日の日本のハンドボールを背負う子供たちの育成にご尽力いただきたいと思います。

なお、このゲーム様式は25、26年度を試行期間とし27年度からは本格実施する予定であります。

2019年女子世界選手権
日本（熊本）開催決まる



公益財団法人日本ハンドボール協会専務理事　川上 憲太

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定に続き、その前の年2019年女子世界ハンドボール選手権大会の日本（熊本）開催が決まりました。さる10月28日のIHF新理事会でプレゼンテーションの後、投票で日本に決定しました。日本協会として本年4月に立候補を決定し、9月2日の申請ファイル提出、10月11日のIHFヒアリングを経て10月28日の決定と、大変短期間の勝負でありましたが、その間熊本県ハンドボール協会島田会長の熱い陣頭指揮のもと、熊本県・熊本市の協力、熊本の皆様のスピードあるチームワークでの対応により、見事に招致を獲得できました。

招致成功の大きなポイントは、8月下旬に男子ユース世界選手権にロビー活動として乗り込み、7名のIHF理事にアピール、10月28日の決定に向けては熊本県小野副知事、熊本市牧副市長もプレゼンテーションに加わって頂き、橋本聖子参議院議員・協会副会長にも行政側のバックアップをプレゼンでアピール、また配布資料やプレゼンの中で安倍総理のメッセージ及び下村文科大臣・オリンピック担当大臣、JOC（日本オリンピック委員会）竹田会長のビデオメッセージも加わり、更に熊本の皆様の会場でのジャパン・熊本コーナーの強烈なアピールもあり、日本チームのパワフルな「本気度」を印象づけたことが第一にあげられます。そしてなんといっても2020年東京オリンピック・パラリンピックが9月7日に決定していたことが大きな要因であることは想像に難くありません。そうはいっても投票は水物、IHF新理事18名の内、ムスタファ会長と渡邊理事（日本協会会長）には投票権が無く、16名の理事に対する日本側の票読みのアプローチの成果も見逃せません。





プレゼンテーションでスピーチする
竹原千賀さん（国府高校）

決定にあたってムスタファ会長より、2020年東京オリンピックハンドボール競技の盛り上げの為にも2019年の女子世界選手権を2020年につなげる大会にして欲しいとの強い要望がありました。加えて日本代表チームの強化についても言及されました。なんといっても日本のハンドボール界の大きな目標が、それも明確な目標が出来ました。ハンドボール界の皆様のより一層のご理解ご支援ご協力を強くお願い申し上げます。







ハンドボール女子世界選手権過去の記録

回数	開催年	開催地	参加国	優勝	2位	3位	日本の成績
1	1957.7.13-20	ユーゴスラビア	9	チェコスロバキア	ハンガリー	ユーゴスラビア	不出場
2	1962.7.7-15	ルーマニア	9	ルーマニア	デンマーク	チェコスロバキア	9位
3	1965.11.7-13	西ドイツ	8	ハンガリー	ユーゴスラビア	西ドイツ	7位
4	1971.12.11-19	オランダ	9	東ドイツ	ユーゴスラビア	ハンガリー	9位
5	1973.12.7-15	ユーゴスラビア	12	ユーゴスラビア	ルーマニア	ソ連	10位
6	1975.12.2-13	ソ連	12	東ドイツ	ソ連	ハンガリー	10位
7	1978.11.30-12.10	チェコスロバキア	12	東ドイツ	ソ連	ハンガリー	不出場
8	1982.12.2-12	ハンガリー	12	ソ連	ハンガリー	ユーゴスラビア	不出場
9	1986.12.4-14	オランダ	16	ソ連	チェコスロバキア	ノルウェー	14位
10	1990.11.24-12.4	韓国	16	ソ連	ユーゴスラビア	東ドイツ	不出場
11	1993.11.24-12.5	ノルウェー	16	ドイツ	デンマーク	ノルウェー	不出場
12	1995.12.5-17	オーストリア・ハンガリー	20	韓国	ハンガリー	デンマーク	13位
13	1997.11.30-12.14	ドイツ	24	デンマーク	ノルウェー	ドイツ	17位
14	1999.11.29-12.12	デンマーク・ノルウェー	24	ノルウェー	フランス	オーストリア	17位
15	2001.12.4-16	イタリア	24	ロシア	ノルウェー	ユーゴスラビア	20位
16	2003.12.2-14	クロアチア	24	フランス	ハンガリー	韓国	16位
17	2005.12.5-18	ロシア	24	ロシア	ルーマニア	ハンガリー	18位
18	2007.12.2-16	フランス	24	ロシア	ノルウェー	ドイツ	19位
19	2009.12.5-20	中国	24	ロシア	フランス	ノルウェー	16位
20	2011.12.2-18	ブラジル	24	ノルウェー	フランス	スペイン	14位
21	2013.12.6-22	セルビア	24				
22	2015	デンマーク	24				
23	2017	ドイツ	24				
24	2019	日本	24				

第68回

国民体育大会 ハンドボール競技

種別	優勝	2位	3位	4位	5位
成年男子	埼玉県	愛知県	広島県	宮城県	三重県・福井県・大阪府・茨城県
成年女子	石川県	熊本県	鹿児島県	広島県	神奈川県・東京都・大阪府・福岡県
少年男子	岩手県	香川県	山口県	茨城県	沖縄県・岐阜県・兵庫県・東京都
少年女子	香川県	大分県	東京都	埼玉県	愛知県・京都府・岐阜県・大阪府





2点共【写真提供：スポーツイベント社】

総　評

東京都ハンドボール協会理事長　樋口道夫

スポーツ祭東京2013ハンドボール競技会は10月2日の諸会議を皮切りに、3日から7日までの5日間、武蔵村山市と多摩市で少年男女、品川区で成年男女、墨田区で成年男子、新宿区で成年女子の競技が行われました。

東京国体の開催に向けては2005年の開催地選定から始まり、当時の大塚理事長が各地の体育館を打診に歩かれ、苦労の末確定しました。2007年の秋田国体から先催県の視察を行うなど、墨田区の実行委員会を幹事区とし5区市と共に準備を進めてきました。東京での国体は54年前の昭和34年、前年には世界一の東京タワーが完成し日本は高度成長の波にのり発展、東京オリンピックに華を開かせました。偶然にも開催地の墨田区に東京スカイツリーが昨年オープンし、今国体を迎えました。開催直前には2度目の東京オリンピック開催が決定し、9月28日のスポーツ祭東京2013総合開会式では国体史上初の夜間にかかる開催で調布の味の素スタジアムにおいて参加者たちがオリンピック選手になったような気持ちを味わう素晴らしい盛り上がりをみせました。

今大会は成年が東京区部の3会場、少年が東京西部多摩地区の2会場ということで墨田区と立川市に本部を置きました。両地区の移動は審判・役員等の安定した移動が非常に困難ということで運営上やむをえない措置としました。両地区を移動された日本協会の役員の方には大変ご苦労をおかけしました。

各会場とも実行委員会役員、地元役員、ボランティアの皆様の温かいおもてなしや応援は素晴らしく、あらためて皆様に感謝申し上げます。

運営面では、5会場に分散したことで役員・補助役員とも多くの人員を要しました。できるだけ会場地の近くの方々や高体連傘下の生徒さんにお願いするなど配慮をしましたが、連日7時集合の会場では早朝5時に家を出る方など大変なご苦労をおかけしました。また多摩地区の少年会場では2会場で35試合を消化するため2日目までは1日6試合の運営が必要なのと、今年度からハーフタイムが15分になったため試合終了が19時近くになり多くの方に大変な思いをさせてしまいました。そのような状態の中でも皆様の懸命な働きに頭が下がりました。

今大会は従来のマッチバイザー制度を廃止し、本来のテクニカルデレゲイト制を国体として初めて採用したため、講習会・練習会を2回おこないました。江成元伸競技委員長、後藤登参与にもご指導いただきました。不安を残す中での開催でしたが、どの係りもきびきび動いていただき無事に終了することができました。これも各会場主任の方々の努力の賜物と役員、補助役員の献身的なご協力によるものと思います。

代表者会議では選手変更の確認に不手際でご迷惑をおかけ

上の8点共【写真提供：スポーツイベント社】



しました。ユニフォームの確認については不適正なものが多く今後の課題とすべきかと思います。また今回は少年女子会場に天皇皇后両陛下をお迎えすることができました。関係の皆様には警備上の関係でご不自由な思いをおかけしましたが、渡邊佳英会長、市原則之副会長のご説明のもと両陛下にハンドボールを楽しんでいただきました。開催市には大変なご準備をいただきました。

地域のハンドボール競技の啓発には5区市各実行委員会主催で3年以上前から元全日本選手、日本リーグチーム、社会人チーム、学連トップチームなどの招聘をし、模範試合、小中学生のハンドボール教室を開催してきました。地域へのハンドボールの認知を高める中で、武蔵村山市ではハンドボールの町を意識した高まりをみせるようになりました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

強化面では従来、成年は東京都国体予選優勝チーム、少年は総体都予選優勝監督一任で参加してきましたが、5年前から国体強化本部を立ち上げ、松本隆栄氏を強化本部長に委員会を構成し準備を進めてまいりました。3年前から監督・スタッフは強化本部が指名し継続して選手、チームの強化を図るシステムとしました。高大連携も活発にし成年の指導者が少年指導のアドバイザーを務めるなど強化を進めてまいりました。少年女子は3位、少年男子5位、成年女子5位と好成績を収め、男女総合成績第3位、女子総合優勝の栄冠を戴き最高の結果を残すことができました。あらためて強化本部、強化スタッフ、全種別の選手のこれまでのご努力と健闘に敬意を表したいと思います。

大会を終え、東京にお越しいただいた選手や役員の皆様にご迷惑、ご不自由をおかけしたことが多々あったかと思いますが何とか無事に大会を終了することができました。これもひとえに、大会の開催にあたりさまざまな面でご指導とご協力をいただいた公益財団法人日本ハンドボール協会、いろいろアドバイスをいただいた先催県の皆様、長年にわたり誠心誠意準備にあたっていただきました墨田区、新宿区、品川区、武蔵村山市、多摩市の国体実行委員会の皆様、大会運営を支えていただいた審判員、競技役員、補助員、ボランティア、関東ハンドボール協会関係者ならびに大会にかかわって下さったすべての皆様に深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

最後に、来年長崎県で開催されます**「長崎がんばらんば国体 2014」**のご成功をお祈りいたしますとともに、一日も早い東日本大震災よりの復興を心より祈念し、国体の総評とします。



成年男子優勝　埼 玉 県

埼玉県成年男子監督　岩本 真典

第68回国民体育大会「スポーツ祭東京2013」を振り返って

この度、第68回国民体育大会「スポーツ祭東京2013」成年男子の部において、私たち大崎電気は埼玉県代表として2年連続19回目の優勝を果たすことが出来ました。これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ社員の皆様、そして埼玉県体育協会、埼玉県ハンドボール協会関係者の方々のご支援、ご声援あってこその結果だと思っております。また大会開催にあたりご尽力いただいた東京都ハンドボール協会をはじめ日本ハンドボール協会、また地元東京都のボランティアの皆様、成年男子会場の墨田区実行委員会、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。そして何より、昨年の国体より遠ざかっていた優勝という文字に飢え、日々のトレーニングを行っていた選手の努力の賜物だと思っています。

国民体育大会は12名しかベンチ登録（国体以外は16名ベンチ登録）が出来ず、大会が始まれば怪我をしても選手の入れ替えが出来ないという苦しい中、決勝戦までの4試合、試合に出場している選手は勿論、登録を外れた選手もチームの為に最善を尽くし、22名の選手が役割を果たしてくれたことに感謝しております。選手には日頃からFOR THE TEAM! THINKING HANDBALL! というチームスローガンの基、指導しております。今大会のスローガン「東京に多摩に島々に羽ばたけアスリート」にもあるようチーム全員が目標に向かって羽ばたいてくれました。

今大会は埼玉県代表として2年連続の優勝でしたが、大崎電気としては次のタイトルに向けこの優勝をスタートに継続して優勝できるよう、これまで以上の努力を重ねてこれからも大会ごとに成長し、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。今後ともご支援、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

成年女子優勝　石 川 県

石川県成年女子監督　荷川取 義浩

始めに第68回国民体育大会の開催にあたり、ご尽力を賜りました日本ハンドボール協会並びに東京都ハンドボール協会、国民体育大会実行委員会をはじめとします関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

この度の第68回国民体育大会において、2年ぶり6回目の優勝を達成する事が出来ました。これも一重に日頃よりご支援・ご声援を頂いております石川県ハンドボール協会並びにサポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に強力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

2020年の東京オリンピック開催が決定し、スポーツに関心が高まる中行われた東日本大震災復興支援第68回国民体育大会。試合会場においても多くのボランティアの皆様方が、設営・運営に携わって、心温まる大会を演出して頂きました。表彰式を終えて、会場を出る際には、国民体育大会実行委員会並びにボランティアの皆様方が小雨降る中、花道を作り、お祝いの言葉と拍手をもって、優勝を讃えて頂き、とても感動致しました。改めて心より感謝申し上げます。

さて、今年は大幅なメンバー入れ替えがありましたが、主将の横嶋（か）を中心にチーム力で優勝を目指しての大会入り。1回戦は茨城県、準々決勝は福岡県と共に大学生を中心にしたチーム。粘りに合いながらも勝利し、準決勝に進出しました。

準決勝は鹿児島県、大会直前の日本リーグでは1点差と辛勝したソニーセミコンダクタ。中盤までは互角の展開でしたが、15分から20分までに5連続得点を挙げて、4点のリ



ードを奪い、前半を14対10で終えました。終始安定したディフェンスで主導権を与えず、後半もリードを広げ、28対15で決勝進出を果しました。

決勝は3年連続で熊本県のオムロンとの対戦。昨年は1点差で敗れて、リベンジを胸に臨んだ1戦。中盤までは2点リードされる展開でしたが、15分過ぎから4連続得点で逆転に成功しました。1度追い付かれましたが、終盤の3連取で11対8として、前半を終えました。後半も2度追い付かれましたが、粘り強く守り、攻めて、逆転されることなく15分までは互角の展開。中盤以降で2度の3連取で抜け出し、22対18で勝利し、2年ぶり6回目の優勝を飾る事が出来ました。

この結果に満足する事無く、多くの皆様方に夢と感動を与えられるようより一層精進致しますので、今後ともご支援・ご声援を宜しくお願い申し上げます。

北國銀行ハンドボール部主将　横嶋 かおる

はじめに、第68回国民体育大会の開催にあたり、諸準備や大会運営等にご尽力いただきました東京都国民体育大会実行委員、並びに日本ハンドボール協会など、多くの関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

今年の4月、これまで主力として活躍されていた諸先輩が引退され、昨年と大幅にメンバーが入れ替わり、若手中心のチームとなったことから、大きな不安をかかえてのスタートとなりました。昨年の岐阜国体で1点差で負けたその悔しさを胸に、チームとして個人として課題を一つ一つ克服しながら日々練習に取り組みました。試合経験の少ない若手の想像以上の成長を確認し本国体に臨みました。試合では、基本プレーを徹底し、積極的なディフェンスから速攻を心がけ、2年ぶりの優勝を勝ち取ることができました。優勝した瞬間嬉しい気持と、ほっとした気持ちとともに、この後続く全日本総合・日本リーグに向け、さらに気をひきしめなければと思ったところであります。この優勝は私達の力だけでなく、陰で支えてくださった多くの関係の皆様のおかげだと重ねて感謝申し上げます。

また、2020年東京オリンピックの開催が決まり、スポーツへの関心が高まっている中での優勝でもあり、大変嬉しく思うとともに、これまで以上にハンドボールを通してたくさんの皆様に元気と感動を与えられるよう頑張らねばと思ったところでもあります。

今後まだまだ戦いは続きます。すべての戦いで勝ち抜ける体力・戦術を身につけチーム一丸となって力の限り頑張っていきたいと思っておりますので、北國銀行をはじめ協会、サポーターの皆様には、これまでと変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

少年男子優勝　岩 手 県

岩手県少年男子主将　安倍 竜之介（不来方高校）

今年の岩手選抜は不来方高校を主体に、盛岡一高から1名藤原君を加えたチームで構成されました。昨年まで不来方高校は全国大会において上位入賞を果たしてきましたが、優勝だけはありませんでした。そんな中、新チームになってから内記徹監督と選手で話し合いを持ちました。そして「今年の目標は高校三冠を達成すること」とみんなで決めました。部内に達成できるかどうか不安視する声はまったくありませんでした。監督が自分たちの力を心底信じてくれている証拠だと思い、全員で苦しい練習や長期の遠征に出かけることを覚悟しました。実際に12月の韓国遠征でチームは高いレベルに脱皮できたように思います。お蔭様で3月の全国選抜大会で初優勝することができました。そして迎えた8月のインターハイ。自分の失格によりチームに迷惑をかけ3回戦で敗退しました。この時、いろいろな事を考え悩みましたが、チーム全員で「まだ目標達成の途中である」と確認し合い、次の目標だけを見据えて頑張り抜くことを誓い合いました。

そして、10月。高校最後の大会である国体を迎えました。初戦から優勝候補の福井県と戦いました。初めは緊張からなかなか本来の自分たちのペースで戦うことはできませんでした。2回戦以降も僅差の戦いが続き、まさに「死闘」だった



ように思います。戦っていて感じたことは、対戦相手に対する感謝の念でした。高いレベルの相手がいるから自分達も成長できるという感謝の念でした。その一戦一戦の戦いの末に、「気がついたら優勝していた」というのが実感です。

全国選抜大会で初優勝した時もそうですが、今回の国体優勝も、地元紙やローカルTV局に取り上げて頂き、被災県である県民の皆様が我が事のようにとても喜んでくれました。自分たちも人のために役に立っているんだと思うと二重に喜びが増してきます。今は高校三冠よりも大きな達成感を味わうことができる幸せを感じています。

最後になりましたが、私たちを信じいつも励まし続けてくれた内記徹監督、長野和樹コーチにお礼を述べて報告に代えさせて頂きます。本当にありがとうございました。

少年女子優勝　香　川　県

香川県少年女子　谷　華花（高松商業）

まず初めに、第68回国民体育大会におきまして、ご支援、ご協力いただきました東京都ハンドボール協会、武蔵村山市、多摩市の皆様を始め、大会の開催にご尽力いただきました関係各位の皆様に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

国体はインターハイ後2ヶ月という短い期間で開催されるので、どれだけ真剣にハンドボールと向き合えるかが大事になります。私たちはインターハイで優勝したことで慢心していたところもありました。それではいけないと考え方を見直し、限られた時間の中で自分たちにできること、やらなければならないことを考え、練習に励みました。そしてもう一度、日本一になりたいという強い気持ちを持ち、この大会を迎えました。初戦では、普段の練習中に起こるミスがそのまま試合に出てしまい、自分たちのやるべきことが徹底できませんでした。試合後のミーティングでは、自分たちが今までやってきたことをもう一度全員で確認しました。準決勝は、地元東京都との対戦でした。国体ならではの雰囲気に戸惑いましたが、なんとか粘り切ることができました。そしてむかえた決勝戦では、「守って走る」という自分たちの戦い方を貫き、優勝することができました。日本一になったとき、目標を達成できたことの喜びと、支えてくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。

最後になりましたが、日頃からご支援、ご協力いただいた県体育協会、県ハンドボール協会、県高体連専門部を始め、会場で応援してくださった皆様、支えてくださったすべての方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



戦　評

【少年男子・決勝】

岩手　28（13 − 7、15 − 14）21　香川

少年男子決勝。2 分岩手安倍、3 分香川西山の得点で始まるが、双方 DF 固く 7 分まで無得点。8 分岩手安倍速攻カットインからゴール後 10 分 3 対 3。岩手、庄子―山崎―安倍の連取で 16 分 8 対 4 とリード。香川作戦タイム後チャンスを作るが、岩手 GK 遠藤の好守もあり、流れ作れず。20 分 10 対 6 岩手リード。香川も植松のサイド、黒川の速攻で追うが、25 分 12 対 7 岩手リード変わらず。香川 1 人退場の 26 分、セットプレーを阻む等良く守ったが、岩手 GK 遠藤の堅守を破れず、13 対 7 岩手リードで前半終了。

後半、岩手セットからサイド先制、庄子速攻。香川も竹内速攻で反撃するが、岩手安倍のミドルで 6 分 17 対 8。香川速攻等シュートチャンス作るがミスを連発。20 対 8 岩手リードの 9 分。香川作戦タイム後、西山―竹内で連取する等、17 分 21 対 14 と 7 点差まで詰め寄る。香川、岩手、共によく走り守る。25 分 24 対 18 で岩手リード。香川の西山、黒川の健闘。岩手の遠藤、安倍の活躍が印象に残るゲームであった。

【少年女子・決勝】

香川　24（14 − 8、10 − 10）18　大分

開始早々、大分県 4 番江藤のロングシュートで得点。香川県は 2 番谷のロングなどで 2 得点する。大分県 GK 塩崎が 2 連続速攻ノーマークを止めるなど香川県はリードを広げられない。その後互いに得点を挙げ 15 分過ぎ香川県 7 対 5 とリード。16 分半ば大分県は 7m スローを得るが、香川県 GK 馬場に阻止され 1 点差に詰め寄れない。その後、香川県は 2 番谷のロング、6 番内海の連続速攻で 4 連続得点を挙げる。大分県は 7 番後藤のサイドシュートで応戦するが、香川県のディフェンスを崩し切れない。さらに 3 連続失点をし、11 対 6 と香川県がリードし、14 対 8 で前半を終える。

後半大分県は、前半 7 得点を挙げた香川県 2 番谷をマンツーマンで守る。香川県は堅牢なディフェンスからの速攻で 10 分までに 6 得点を挙げ 20 対 12 とリードを広げる。その後、大分県は 5 番川上、3 番落合、9 番原らの 4 連続得点で追い上げるが、香川県 10 番谷の連続得点で突き放し、24 対 18 で香川県の優勝で終わる。両チームとも力を出し切った試合であったが、特に香川県の堅実なディフェンスからの速攻と、大分県 GK 塩崎の好捕が光る試合であった。

【成年男子・決勝】

埼玉　30（11 − 12、19 − 10）22　愛知

成年男子決勝、埼玉県対愛知県の試合は愛知県 3 番野村の豪快なミドルシュートで始まった。お互い堅いディフェンスから速攻へとつなげるが、埼玉県 12 番浦和、愛知県 12 番久保の両ゴールキーパーによる好セーブに阻まれ、なかなかゴールを割ることができない。前半開始 17 分で 6 対 6 と緊張感のある試合展開となる。リズムに乗りたい埼玉県は 6 番豊田の得点で 2 点差にすると、愛知県が 22 分にタイムアウトを取り、立て直しをはかり同点とする。25 分には埼玉県がタイムアウトを取るも流れが変わらず、12 対 11 で愛知県リードで前半終了。

後半、埼玉県は 8 番東長濱のミドルシュートで同点とすると、3 連続得点を含む 5 得点で愛知県を突き放しにかかる。追いつきたい愛知県だが後半 7 分に退場者を出してしまう。後半 10 分を終えて 20 対 14 と点差を離されてしまい、愛知県は我慢の時間が続く。埼玉県も退場者を出すも愛知県はこのチャンスを生かし切れず、後半残り 10 分で 23 対 16 とじりじり点差を離されてしまう。後半残り 5 分で埼玉県が退場者を 2 名出し、愛知県 9 番武田らの得点で追い上げるも、埼玉県はゴールキーパー 1 番木村の気迫あふれるセービングでゴールを守り、愛知県に流れを渡さない。後半残り 2 分で愛知県はオールコートマンツーマンディフェンスで最後の反撃を試みるも力及ばず、30 対 22 で埼玉県が 2 年連続優勝を果たした。

【成年女子・決勝】

石川　22（11 − 8、11 − 10）18　熊本

成年女子決勝戦、熊本県と石川県の対戦。石川県のスローオフで試合開始。石川県が 4 番上町のミドルで先制すると、熊本県も 6 番東濱のミドルで応戦する。両チームとも相手の堅いディフェンスを崩せず、一進一退の攻防が続いたが熊本県は 12 分、5 番稲葉のランニングシュートで 3 連取し 4 対 2 の 2 点差をつけた。18 分、石川県は 7 番田邉のサイドシュートで 5 対 5 の同点に追いつき、さらに 22 分までに 2 連取して 5 対 7 とリードを広げた。25 分、熊本県は 7 番松本のサイドシュートで 8 対 8 の同点に追いつく。石川県は終了間際に 11 番翁長がカットインからのシュートを決め、3 連取して熊本県を突き放し前半を 8 対 11 で終えた。

後半 6 分、熊本県は相手のミスから速攻で 2 点を返し 10 対 12。9 分には 5 番稲葉のステップシュートで 3 連取して、13 対 13 の同点に追いつく。12 分に石川県が 6 番横嶋のカットインからのシュートで 2 点差としたところで、熊本県がタイムアウトを取る。15 分に石川県 7 番田邉の連続得点で 15 対 15 の同点。19 分には熊本県 11 番永田がポストシュートを決め、1 点差。決勝戦にふさわしい 1 点を争う攻防が続いた。26 分、石川県は 6 番横嶋のサイドシュートで 18 対 21 の 3 点差とする。ここで熊本県はタイムアウトをとるが 18 対 22 で試合終了。激戦を制した石川県が 2 年ぶり 6 回目の優勝を飾った。

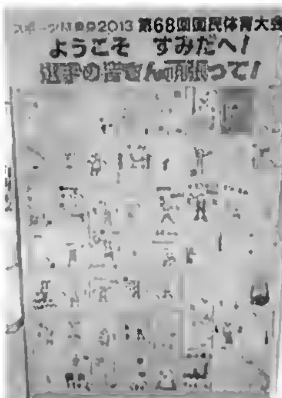
Report

東京国体を観戦して

2013 年 10 月 5 日、成年男子準々決勝の会場となった墨田区総合体育館を訪れた。国体を観戦するのは、自分が高校生の時に地元で開催されて以来である。最寄り駅から体育館に向かう途中、始めに目に入ってきたのは公園内の道の両脇に設置された、岩手県釜石市や墨田区の物産を扱う屋台であった。



さらに会場の周辺には、「ようこそ！すみだへ！」と書いた横断幕や、各都道府県の名前が書かれたのぼりなどがあり、国体は単純にスポーツの大会というだけではなく、開催地にとっては一種のお祭りのようでもあり、また都道府県にとっては対抗戦であるのだな、ということを強く感じた。





会場に入ると、コートでは熱い試合が繰り広げられていた。そんな中、広島県対福井県の試合の観客席で、片手にラッパを持ち、もう一方の手にメガホンを持って、一際大きな声を出して応援している男性が目に入った。ハーフタイムに少しお話を伺ったところ、広島県の応援をされている湧永製薬の社員の方だった。ハンドボールそのものをやったことはないが、会社がチームを持っていたことがきっかけで、日本リーグの試合に足を運び、応援するようになったそうだ。始めはルールも分からない状態だったが、試合を見ながら、または選手に教えてもらいながら徐々に覚えていき、ルールが分かるようになってからは、さらに試合が楽しめるようになったとのこと。20 年ほどハンドボールの試合を観て来たということで、ハンドボールの魅力を伺ってみたところ、格闘技のような部分があるところや、スピード感だとおっしゃっていた。その後、後半も熱心に応援を続けられ、広島県は見事勝利。試合終了後も選手にエールを送っており、このような方の存在は選手にとっても心強いものだろうな、と感じた。また、ハンドボールをしたことがない方にとって、ルールが始め分かりにくいことはやはり大きなハードルになるが、そこを越えれば人を引き付ける魅力がこの競技には確かにあると、改めて実感した。



次の宮城県対大阪府の試合では、地元の中学生が多数観客席に来ていた。学校行事の一環として観戦に来たのだとは思うが、普段あまり触れる機会のないハンドボールの試合を観て、面白いと感じてもらえたならいいな、あわよくば興味を持ってハンドボールを始めてくれたらいいな、と期待を抱いた。オフィシャルやモップも高校生と思われる生徒たちが行っており、目の前で日本トップレベルの試合を観られて、よいモチベーションになったのではないだろうか。他にも、小学生を対象とした 7m スローコンテストも行われており、普及という観点において、国体が果たすことのできることはあるではないかと感じた。



今回、1 日ではあるが国体を観戦して、地元のお祭りとしての側面、そして子供達がハンドボールに触れる機会としての側面が垣間見えた。来年の開催地は長崎県。そこでも沢山の素晴らしいプレーが生まれ、子供達がハンドボールに触れ、そして地元が一体となって盛り上がってくれることを期待したい。　（機関誌編集委員）



スポーツ安全保険®

傷害保険

賠償責任保険

突然死葬祭費用保険

5

5名以上の団体でご加入ください。

みんなの笑顔でガッチリ安心!

対象となる事故 団体活動中の事故/往復中の事故

保険期間 平成25年4月1日午前0時より平成26年3月31日午後12時まで(申込受付は平成25年3月から)

加入区分・掛金・補償額

団体活動を行う **5** 名以上の方々でご加入ください。加入区分は加入者ごとにご選択ください。

加入対象者		補償対象となる団体活動	加入区分	年間掛金(1人当たり)	傷害保険金額 死亡	傷害保険金額 後遺障害(最高)	傷害保険金額 入院(日額)	傷害保険金額 通院(日額)	賠償責任保険 支払限度額(免責金額なし)	突然死葬祭費用保険 支払限度額
子ども [中学生以下 特別支援学校高等部の生徒を含む。]		スポーツ活動 文化・ボランティア・地域活動	A1	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	突然死(急性心不全 脳内出血など) 葬祭費用 180万円
		上記団体活動に加え、個人活動も対象 AW区分の特徴:個人活動・個人練習なども補償の対象となります。 上段:団体活動中およびその往復中の補償額 下段:上記以外(個人活動など)の補償額	AW	1,450円	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円	身体・財物賠償 合算1事故5億500万円 ただし、身体賠償は1人1億500万円	
		(熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒の場合、保険金額はA1区分と同様)			100万円	150万円	1,000円	500円	身体・財物賠償 合算1事故500万円	対象外
		(熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒は対象となりません。)								
大人	高校生以上 65歳以上の方も加入できます。	文化・ボランティア・地域活動、団体員の送迎、応援、準備、片付け ※スポーツ活動を行う場合は対象となりません。	A2	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円 〈!〉自動車事故によって賠償責任を負った場合は、補償の対象となりません。	突然死(急性心不全 脳内出血など) 葬祭費用 180万円
		スポーツ活動 スポーツ活動の指導・審判	C	1,850円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
		子どもへのスポーツ活動の指導・審判 ※C区分でも加入可	AC	1,300円	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円		
	65歳以上	スポーツ活動 ※C区分でも加入可 ※スポーツ活動を行わない場合はA2区分	B	1,000円	600万円	900万円	1,800円	1,000円		
全年齢		危険度の高いスポーツ活動	D	11,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

※同一団体で1口しか加入できません。中途加入する場合、中途脱退する場合も年間掛金を適用します。加入後の加入者の入換え、加入区分の変更はできません。
※危険度の高いスポーツ活動はD区分以外では補償されません。

スポーツ安全協会 検索 インターネットからの加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

公益財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル8階 TEL03-5510-0022

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

この広告はスポーツ安全保険(スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険(スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険)、賠償責任保険(スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)))の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

(引受幹事保険会社)
東京海上日動火災保険株式会社(担当課)公務第2部公務第1課
TEL 03-3515-4133(平日9:00~17:00)
(共同引受保険会社(平成25年4月予定))
あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン 大同火災 東京海上日動 日新火災 日本興亜損保 富士火災 三井住友海上

平成25年1月作成 12-T-09679

第5回 女子ユースアジア選手権

5th Asian Women's Youth Handball Championship

【最終順位】
優勝：韓　国
2位：日　本
3位：カザフスタン
4位：ウズベキスタン
5位：中　国
6位：タ　イ
7位：イラン

	星取表	KOR	JPN	KAZ	CHN	THA	UZB	IRI	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点	4-5位 3チーム間 得失点差
1位	韓国（KOR）		39 ○ 29	41 ○ 19	35 ○ 15	50 ○ 15	49 ○ 16	39 ○ 14	6	6-0-0	253	108	145	12	
2位	**日本（JPN）**	29 ● 39		39 ○ 34	43 ○ 22	42 ○ 22	47 ○ 7	49 ○ 15	6	5-0-1	249	139	110	10	
3位	カザフスタン（KAZ）	19 ● 41	34 ● 39		38 ○ 27	32 ○ 22	34 ○ 21	36 ○ 28	6	4-0-2	193	178	15	8	
5位	中国（CHN）	15 ● 35	22 ● 43	27 ● 38		23 ○ 19	29 ● 33	38 ○ 27	6	2-0-4	154	195	-41	4	0
6位	タイ（THA）	15 ● 50	22 ● 42	22 ● 32	19 ● 23		24 ○ 21	29 ○ 23	6	2-0-4	131	191	-60	4	-1
4位	ウズベキスタン（UZB）	16 ● 49	7 ● 47	21 ● 34	33 ○ 29	21 ● 24		33 ○ 24	6	2-0-4	131	207	-76	4	1
7位	イラン（IRI）	14 ● 39	15 ● 49	28 ● 36	27 ● 38	23 ● 29	24 ● 33		6	0-0-6	131	224	-93	0	

団長　津川　昭

2013年9月7日～15日　タイ　バンコク
参加国：日本、中国、韓国、ウズベキスタン、カザフスタン、イラン、タイ
上位3ヶ国が2015年世界選手権大会出場

2014年の女子ユース世界選手権の予選を兼ね、第5回女子ユースアジア選手権がタイ、バンコク市で開催された。出場資格は1996年1月以降生まれということで、早生まれの高校3年生と2年生でメンバーが構成されている。また、選手16人中9名が2012年U-16日韓交流の選抜選手である。このチームは3回、計18日間の強化合宿を経て本大会に臨んだ。

開催国のタイは女子ジュニア、ユースは活動しており、大会の開催もたしか3度目と記憶している。

9月5日、激しい雷雨で出発が遅れたものの無事バンコクに到着、猛暑の日本であったが、タイは比較的湿度は高いものの、気温的にはむしろ低くさえ感じた。ホテルは参加チーム全てが同じホテルであったが、食事内容を含めて問題となることは無かった。また試合会場もエアコンが効いており特に問題となることはなかったが、タラフレックスの松脂を落とすためにワックスを使用したのか、肝心の試合当日は滑りやすく、多少プレーに影響があった。ただフロアーの汚れとともに徐々に解消し、二、三日後には全く問題は無くなった。大会の運営としては練習会場、時間などに多少のやりにくさがあったが、そう深刻なものではない。当初ホテルロビーに



大会デスクが用意され係員が駐在していたが、いつの間にか撤収されていた。

大会に臨む前に世界選手権出場枠は前回の成績によりアジア5枠と聞かされていたが、テクニカルミーティングで3枠との説明があった。AHFに確認したところ、来年の世界選手権の総枠が決まっておらず、仮に24ヶ国の大会になった場合には、アジア枠も増えるとのことで、今大会で確定するのは3位以上とのことであった。JHAにも事態を報告したが、JHAの早とちりの部分もあり、内容が内容だけに今後は事前確認を徹底することが望ましい。

各試合の詳細報告は監督にお願いするとして、前回2位という成績により、日本としては徐々に上位チームと対戦するという理想的な試合日程であったが、結局韓国に勝利するところまでは届かず、2位という結果で大会を終了した。

今のところ実力的には韓国、日本、カザフ、中国といった順位になろうかと思うが、タイはデンマークから、中国もセルビア（ロシアという話もある）から指導者を招聘、カザフスタンは女子代表監督が兼務するなど、各国ユース世代へ注力しているのが伺える。

カザフスタンユースはメンバー的にも一つ上のジュニア層より充実、ゲームスタミナ的にも優っており、日本の組みにくい相手の一つとして成長してくるのではと思われる。

日本はどのカテゴリーでも韓国に勝ちきれない状況が続いている訳だが、チーム強化に費やせる日数など強化状況が大分違う。韓国では各カテゴリーで欧州遠征が組まれる他、強化合宿などの日数も大きな差があるようだ。選手個々をとってみると谷さんや、河原畑さんを筆頭に韓国選手と遜色が無いどころか優った選手もいるだけに、この準備不足という意味においては選手に申し訳ないとさえ思う。ただ日本チームの課題として、今回の韓国戦も29得点をあげておきながら勝ちきれないディフェンス（39失点）。特にポジションチェンジをしないシステムDFだけで育っている選手とそうでない選手がコンビネーションを取れるようにするのが難しい。システムDFだけでは大型ポストなどに対応できず、かといってシステムを変更しようとするとブレイクスルーに対応でき





ないなど…。特に韓国はどの世代にもセンタープレイヤーに、フェイント力、配球力、シュート力と三拍子揃った選手がいる。チーム強化の前に１対１、２対２などの個のディフェンス力を如何に高めるかが今後の大きなテーマと思われる。

今回特筆すべき事項として、こういった遠征では初めて選手の尿検査を毎日２回実施した。これは帯同して頂いた貝沼ドクターからのご提案で、サッカー WC で実施されたもので、尿を検査することで選手の疲労度を測定するとともに、比重を測定し練習・試合前に水分を補給しておいた方が良い選手など、脱水症状を未然に防ぎ選手のパフォーマンスを極力落とさないようにするなどが目的である。それなりに選手の関心も高く、コンディショニングという意味では良い成果が得られた。詳細は後日、医科学委員会などで報告される予定。また、現地病院で研究されている日本人ドクターも毎日のように応援にお越し頂き、何かと心強い中で大会に臨むことが出来た。

結果は残念ながら準優勝で終わったが、私にとっては今後の強化の進め方など大変収穫の多い遠征であり、これからの活動に生かしていきたいと思う。

最後になりましたが、選手を派遣くださった所属チームの皆様、遠征に際しいろいろご手配頂いた皆様方に感謝申し上げ、報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

監督　石川 浩和

第５回女子ユースアジア選手権大会は、９月 15 日の日本 vs 韓国戦を最後に終了しました。５試合全勝同士の決戦で、心中ひそかに「一泡吹かしてやりたい」と期していましたが、立ち上がりの拙い試合運びが最後までたたって敗れました。

津川昭団長をはじめ、関係者の方々には「敗戦は残念だが、ま、力からいえば、順当なところだね」と、ご配慮ある言葉で慰めていただきましたが、やはりチームを預かった者としては、責任を十分に全うしたとまではいえないことをお詫びしたいと存じます。

津川団長から「どうやら韓国チームの練習日程と日本チームのそれと比べると、敵の方がかなり長かったようだね。練習時間が同じならこっちが勝てたなあ」との言葉を頂いたのが、選手たちには大きな慰めとなったようです。

私自身の思いはさておき、今回の大会でもっとも報告したいのは、前回（私はコーチを担当いたしました）に勝るとも劣らないスタッフの一体感です。

津川団長の統率、辻賀奈子コーチの細やかな気配りと指導、貝沼圭吾ドクターの積極的で多様な行動、宿利政夫トレーナーの献身的なケア、私の至らぬ所をすべて補っていただき、監督として作戦などの最重要の任務に集中することができました。

より具体的に例を挙げて記したいと存じます。津川団長は、「君らは東京五輪世代だ。君らのためにオリンピックがある。７年後は、私は年齢的にお手伝いはできないが、強化本部長という今の立場によって、道筋はしっかりと君たちのためにつけてやる！」と、選手たちに宣言され、彼女らのモチベーションを大いに高めて頂きました。

辻コーチは、見事に選手たちに溶け込み、女性ならではのコミュニケーション力を発揮して、選手一人一人の状態を的確に把握してくれ、練習でも試合でも、私の問いかけに瞬時かつ十分に即応してくれました。とくに、混乱しやすい状況で、私の最終判断に完全に基づく行動をとってくれたのは、実にありがたいことでした。

貝沼ドクターは、とにかく様々に活躍してくれました。通常の医療サポートはもちろんのこと、新たに尿検査によるコンディショニングを導入したり、得意の英語力で通訳を一手に引き受けてくれたり、先輩でタイに研究留学中の田村ドクター（高校時代ハンドボール選手だったそうです）をサポーターに引っぱりだしたり、書き尽くせないほどです。

宿利トレーナーは、私の本務校のチームでも同じ仕事を長



く務めており、私とはほとんど阿吽の呼吸で動いてくれました。いつものことですが、早朝であれ、深夜であれ、選手の要望に即して、また選手の状態に合わせて、即時に手当てするという実行力は、選手たちからの感謝の的でした。

選手たち個々人については触れませんが、タイという気候など不慣れな環境の中で、実力を出そうと懸命に努めてくれました。彼女らには、じつに貴重な経験になったに違いありません。これからも長く続くハンドボール人生の中で、大きな力になったと記憶に残るものであって欲しいと願っております。

選手に関していえば、次回以降の課題として、代表選手の選抜があります。今回は、残念ながら、全国の有望な選手たちの資料も少なく、選抜期間も短く、練習時間も少なく、という悪しき三拍子が揃ってしまいました。

もちろん、そうならざるをえない事情も十分に承知した上でのお願いでありますが、このうちの一つでも、そしてほんのわずかでも、改善へ向かえば、次回大会で成果に直結する可能性が大だろうと愚考しております。

というのも、中国・タイ・カザフスタンは、欧州から監督を呼び寄せて強化を図っているからです。日本は外国人指導者に頼らずともまだまだ強化できるでしょうが、他のアジア諸国がハンドボールにも金銭力を注ぎ始めたことを、指をくわえて傍観しているわけには行かないと案じたのは、私だけでないと存じます。

以上、ご報告に代えさせていただきます。

高松商業３年　谷　華花

女子ユースアジア選手権に出場して

バンコクで開催されたユースアジア選手権。出場したメンバーのほとんどが公式の国際大会で試合をすることが初めてでした。大きな期待と不安、両方を胸に現地に到着しました。今回の大会は、来年マケドニアで行われる世界選手権の切符を獲得することだけでなく、アジアで一位になることを目標に、チーム一丸となって戦ってきました。高さ、パワーのある選手に対応するため、攻撃を攻撃するようなアグレッシブなDFで、相手のミスを速攻につなげ、OFは大会前の合宿の中で自分たちが考えたきっかけをベースに目の前の状況を判断し、自らシュートを狙いにいくことを意識しました。

最初は連携の声が出なかったり、自分たちのミスから失点をすることが多くありました。しかし、試合を重ねるごとにチーム全体の雰囲気も良くなり、気持ちがひとつになっていくように感じました。どの試合もメンバーを入れ替え、16人全員で全６試合を戦い抜きました。

５連勝でむかえた韓国戦。前半は足が動かず、自分たちのハンドボールができませんでした。最後の最後まで諦めず戦いましたが、前半の点差を詰めることはできませんでした。２位で大会を終え、世界選手権の切符は獲得できたものの、とても悔いの残る結果となりました。しかし、この大会中に2020年のオリンピックが東京で開催されるという嬉しいニュースもあり、次に向けて頑張ろうという意欲が湧いてきました。

私たちが試合に集中できたのは現地にて、たくさんのサポートをしていただいたからこそです。現地に住まわれている日本の方も応援に駆けつけてくださいました。私たちを支えてくださった多くの方に感謝の気持ちでいっぱいです。そしてともに戦ってくださった津川団長、石川監督、辻コーチ、宿利トレーナー、貝沼ドクター、本当にありがとうございました。

今回の経験を自分の糧とし、これからも日々努力していきたいと思います。



戦　評

■9月7日（土）
日本　49（23－8，26－7）15　イラン

日本はGK八木、CP園・河原畑・谷・奥田・斗米・藤田でディフェンスからスタート。先取点はイランのポストシュート。すぐさま河原畑のカットインで同点に追いつく。イランは、センタープレーヤーの1対1からのきっかけで、押し込むようなオフェンスを展開。硬くなった日本のディフェンスから得点を挙げるが、慣れてきた日本ディフェンスは高いラインからカットを狙い、速攻で得点する。15分過ぎからは完全に日本のペースに。

後半日本は、6－0ディフェンスから5－1ディフェンスにシステムを変更することによって、より積極的にボールを奪い、速攻に拍車をかけて、16名が全員出場した。途中、パスミスやノーマークシュートミスがあり、リズムがつかめない場面もあったが、13番近藤のカットイン・速攻などで11得点を挙げてリズムを取り戻した。ややディフェンスに課題はあったものの、全員出場・全員得点で初戦を勝利した。

［個人得点］近藤：11点、眞方：7点、河原畑：6点、松浦・藤田：4点、奥田・竹原・園：3点、村松・檜木・斗米：2点、谷・海老原：1点

■9月8日（日）
日本　42（23－11，19－11）22　タイ

日本のスローオフでスタート。先発は、昨日と同じメンバー。先取点は7番藤田のサイドシュート。タイもすぐにカットインで1対1の同点になる。その後、すぐに日本は速攻で得点。日本は、6番谷を中心にディフェンスが安定し、「守って速攻」の展開に持ち込む。7番藤田・13番近藤の得点が目立って、前半を折り返した。

後半になると日本は前半以上にメンバーチェンジを頻繁に行い、昨日に引き続き全員出場の試合展開。ところどころ、ディフェンスの連携ミスやタイの体格の大きな2人の選手に手こずったが、4番河原畑のロングシュートが決まってから、波に乗ることができた。5番松浦のサイドシュート・4番竹原のミドルシュート、15番眞方の速攻、12番GK岸本の好セーブなど控え選手の活躍もあり、勝利することができた。タイは、デンマークから監督を招聘し、オフェンスパターンなどがヨーロッパスタイルであった。日本は、昨日の初戦よりも選手全員が落ち着いてプレーをし、ミスがかなり減ったことが好材料である。

［個人得点］河原畑：9点、藤田・近藤：5点、松浦：4点、竹原・檜木・園・眞方：3点、奥田・谷・村松：2点、海老原：1点

■9月9日（月）
日本　39（22－18，17－16）34　カザフスタン

第3戦目も日本は同じメンバーでスローオフからスタート。開始11分、7番藤田のサイドシュートで先制点。その後、硬さが目立つ日本は連続3失点を許してしまう。早めのチームタイムアウトで日本はディフェンスの確認をすると、7番藤田・2番河原畑が2連続得点で、同点に追いつく。そこからは一進一退の攻防が展開される。13分過ぎに、やっと日本のディフェンスが機能し、「守って速攻」の形になった。更に日本はディフェンスシステムを5－1に変えるが、カザフスタンの強い1対1を守れず、一時は5点差までリードするが、焦りからミスが起きてしまい、前半を4点差のリードで折り返した。

後半、日本は突き放すチャンスを焦らずに行こうとハーフタイムで確認し、良い流れを呼び込む。6番谷・7番藤田・14番園の速攻などで15分過ぎには6点差までリードした。しかし、カザフスタンもスタミナが衰えず、日本のディフェンスに積極的に攻撃した。審判の首を傾けざるを得ない判定もあり、退場者を3回も出されてしまったが、気力で守った。カザフスタンは、日本の選手よりは体格が勝るが、昨年までの大型選手のロングシュート主体のチームではなく、機動力を生かした多彩な戦術をするチームであった。スロベニアから監督を招聘していることが原因だと思われる。

［個人得点］藤田：13点、河原畑：7点、奥田・園：6点、谷：4点、斗米：3点

■9月12日（木）
日本　47（21－5，26－2）7　ウズベキスタン

日本は、今まで通りのメンバーでディフェンスからスタート。ラインの高いディフェンスからインターセプトを狙い速攻を仕掛ける。開始2分35秒2番河原畑のロングシュートで先制すると、3番奥田、7番藤田、14番園の速攻などで6対1とする。日本はメンバーチェンジを頻繁に行いながらも攻撃の手を緩めずに15番眞方、2番河原畑、13番近藤の速攻などで終始日本ペースで前半を終了した。

後半もスタートメンバーは同じ。3番奥田、14番園、6番谷の速攻などで開始8分には27対5となる。そこからまたメンバーチェンジを行うが、「守って速攻」の流れは変わらず、12番岸本、16番渡邊の好セーブから15番眞方、5番村松、13番近藤の速攻などで大量得点を挙げた。全員出場。

［個人得点］河原畑：9点、眞方：7点、村松・近藤・園：5点、松浦・藤田：4点、竹原：3点、奥田・谷：2点、海老原：1点

■9月14日（土）
日本　43（25－12，18－10）22　中国

この試合に勝てば、来年の世界選手権の出場権が得られるということで選手はいつも以上に気合が入っていた。日本のスターティングメンバーは今までと同じ。日本のスローオフからスタート。先取点は3番奥田のロングシュート。立ち上がり日本も少し緊張気味でなかなかディフェンスで連携が最後まで続かず、一進一退の攻防が8分過ぎまで続いたが、日本のディフェンスの連携が機能しだし、16番渡邊の好セーブから7番藤田・2番河原畑の速攻で中国を突き放しにかかる。途中、中国は荒いディフェンスから一人の選手が失格、その後続けて退場となり、コートプレーヤーが4人となる。日本は良いリズムで得点を重ね、前半を終了した。

後半、日本は全員を出場させた。リズムを崩した時間帯もあったが、5番松浦の果敢な攻撃でリズムを取り戻す。8番村松・9番檜木の速攻などで順調に加点した。特に目立ったのは、8番村松、5番松浦、GK岸本の好プレーであった。後がない中国は、更に荒いディフェンスで日本選手の攻撃を抑えにきたが、大きな怪我にならずに試合を終えることができた。中国の監督はセルビアから招聘され、ヨーロッパスタイルを選手に要求していた。確かに体格はヨーロッパの選手に匹敵するが、選手とベンチの要求が噛み合っていなかったようだった。

［個人得点］河原畑：9点、藤田：7点、奥田・松浦：5点、村松：4点、竹原・近藤：3点、谷・園：2点、檜木・海老原・眞方：1点

■9月15日（日）
日本　29（14－22，15－17）39　韓国

大会最終日、アジアチャンピオンをかけて韓国と対戦。日本は、今までと同じスタートメンバーで、ディフェンスからスタート。開始早々、韓国の大型ポストに先制されたが日本もすぐに2番河原畑のロングシュート、7番藤田の速攻で逆転する。しかし、その後すぐに4連続得点をされてしまう。しかし、日本も攻撃的なディフェンスで韓国のミスを誘い4連続得点をし、一進一退の攻防になった。中盤を過ぎると日本のディフェンスが崩れ始め、ミスも起こり、韓国のペースで試合が進んでしまった。

後半は、6分を過ぎたころから、日本のディフェンスがやっと機能しだし、韓国のオフェンスを上手に守り速攻にでるのであったが、なかなか得点に結びつけることができない。しかし、日本はディフェンスで足を止めずに果敢に韓国のオフェンスにプレッシャーを掛け続け、中盤では6点差まで追い上げる。韓国が慌ててチームタイムアウトを請求した。その後、5点差になるノーマークシュートミスから、再び韓国のペースになり、試合終了となった。

［個人得点］藤田：8点、斗米：5点、河原畑・谷・園：4点、奥田・近藤：2点

リオオリンピック、世界選手権、そして東京オリンピックに向けて

「政界産業界ハンドボール経験者の会」から


福地和彦様


福井俊彦様


片岡千之助様


光武勉様


渡邊佳英・日本協会会長


島田俊郎・熊本県協会会長


市原則之・日本協会副会長


橋本聖子・日本協会副会長

去る10月31日、東京・銀座において、政界産業界ハンドボール経験者の会（界友会）が、100名を超す方々の出席のもと盛大に開催されました。

司会をお務めになったのは、福地和彦様（三井物産（株））。まず始めに福井俊彦様（キヤノングローバル戦略研究所理事長、界友会会長）から、東京オリンピックに向けてハンドボール界はもちろんのこと、日本全体を民間から動かしていきましょうとのお言葉、そして乾杯の発声をいただき、宴はスタートしました。

しばらくのご歓談の後、片岡千之助様（松竹（株）歌舞伎俳優）のご挨拶がありました。中学校でハンドボール部に所属し、練習に励んでいるというお話があり、7年後に20歳と東京オリンピック世代ということもあり、会場全体が若いハンドボーラーへの期待と応援の気持ちで一杯となりました。続けて、ハンドボールを通じてチャリティー活動をされている光武勉様（HAND TO HAND実行委員長）から、チャリティーハンドボールイベントに関しての紹介がありました。東日本大震災をきっかけに始まった活動には、日本代表選手だけでなく、俳優や歌手、芸人といった芸能人の方々も多数参加されており、今後ハンドボールが社会でどのような役割を担っていけるのかについて、新たな可能性を感じました。

再びしばらくのご歓談を挟んだ後、日本ハンドボール協会・渡邊佳英会長から、メダルを争えるチームを作り、そして日本全体を巻き込んだ世界大会にしていくという強い決意のこもったご挨拶をいただきました。続けて日本協会の役員紹介があり、次に、熊本県協会・島田俊郎会長から、2019年の熊本女子世界選手権に向けたご挨拶をいただきました。

次に、2つの世界大会が日本で開催されることについて、2人の副会長からご挨拶がありました。日本ハンドボール協会・市原則之副会長は、JOCで招致活動にあたられていた際の話を交えながら、東京のオリンピックではなく、日本のオリンピックにしていかなければならない、と述べられました。同じく日本ハンドボール協会・橋本聖子副会長からは、時折笑いを交えながら、日本のハンドボールを強くしていきましょうという心強いお言葉をいただきました。

その後、日本ハンドボール協会・津川昭常務理事／強

化本部長より、日本代表チームの強化の現況について話があり、更に、清水博之男子代表監督、栗山雅倫女子代表監督より、今後に向けての決意表明がありました。

続けて、出席者を代表して、オムロン（株）代表取締役社長の山田義仁様、スポーツイベント（株）社長の山本浩二様より、日本代表への激励と応援のお言葉をいただきました。

そして、ハンドボール振興議員連盟事務局長であり、衆議院議員の齋藤健様からは、超党派の議員連盟として、国会からもオリンピックに向けてハンドボールを応援していくというありがたいお言葉をいただきました。

最後に、多田博・日本ハンドボール協会副会長兼日本ハンドボールリーグ機構会長から中締めのご挨拶があり、会は盛況のうちに終了しました。

本年の界友会は、東京オリンピックの開催が決定し、日本代表チームのオリンピックへの出場が事実上決定したこと、さらに熊本女子世界選手権も決定したということもあり、例年を大きく上回る方々が出席され、非常に賑やかな会となりました。これから日本で開催される世界大会に向けて、会場全体が期待に胸を膨らませており、一丸となって日本代表を支えていこうという思いが感じられました。また、女性の出席者の方々が増えており、そのことにはご挨拶の中で触れられる方もおり、会に華やかさを感じました。女性の出席者の方々の中から、銀座柳画廊（株）副社長の野呂洋子様に少しお話を伺いました。ご本人は東京で中高とハンドボール部に所属されていたそうで、その当時のご体験から、よい指導者の必要性、そして、中高生という若い世代の教育の重要性を話してくださいました。普及についても触れられており、東京オリンピックの時に、ハンドボールがメジャーな競技になっているように、これから頑張っていかなければならないとお話しされていました。

オリンピックという、世界的なスポーツの祭典に向けて日本全体が盛り上がっていく中で、ハンドボール界も確実に盛り上がっていることを感じました。この盛り上がりがいい方向に影響し、日本のハンドボールが強くなっていくとともに、日本にハンドボールが広く普及していくことを願ってやみません。


津川昭・日本協会常務理事／強化本部長


清水博之・男子代表監督


栗山雅倫・女子代表監督


山田義仁様


山本浩二様


齋藤健様


多田博・日本協会副会長


野呂洋子様



第11回 日本車椅子ハンドボール競技大会

宮城フェニックスが優勝

第11回日本車椅子ハンドボール競技大会は、10月19日（土）・20日（日）の2日間、徳島県鳴門市の大塚スポーツアミノバリューホールで8チームが参加して開催された。

決勝戦は、昨年と同様、宮城フェニックス（宮城県）とドリーマーズ（京都府）の一戦となり、宮城フェニックスが前半戦から大きくリードを奪い、連覇を飾った。





▼準決勝

宮城フェニックス　22（13－4、9－6）10　大阪ネルフ

［戦評］試合は宮城ペースで進んだ、宮城はキャリアの豊富さを随所に発揮した。宮城の無駄のない中盤の試合運びが一方的な勝利となった。

後半は、激しいゴール前のポジション争いから高さで勝る宮城が有利にボールを制し、シュートに威力を発揮してワンサイドゲームとなった。

ドリーマーズ　21（11－3、10－5）8　京都伏見スパローズ

［戦評］開始早々からドリーマーズペースの試合展開。ドリーマーズはサイド、ポスト攻撃など多彩な攻撃で柔らかいパスをおりまぜて8点差で折り返した。

後半もドリーマーズは的確なパスワークで点差を広げた。試合展開の速い京都伏見もミドルシュートなどで応戦したが、地力に勝るドリーマーズが意外な大量点で圧勝した。

▼決勝戦

宮城フェニックス　23（14－5、9－6）11　ドリーマーズ

［戦評］前半、宮城はドリーマーズのシュートミスを佐藤が連続得点し、また丸山内もサイド攻撃から走りこんでポストシュートなどを決めて前半で14対5と一挙に引き離すリードをみせた。

両チームはお互いに相手を知り尽くした動きでパスコースも読み取り、宮城GK君波の好守でドリーマーズのシュートをよく阻んで得点を与えず、逆に速攻で加点したのは実力差といえる。

後半は互いに相手の動きを読み取り対応するディフェンスができた。ドリーマーズは樋口の好シュートが決まり追い上げたが、前半の大量得点差を挽回するには至らなかった。惜しい一戦となり、今回も悲願の優勝は成らなかった。



日本ハンドボール協会創立75周年記念誌の内容訂正について

本年2月2日に発行いたしました、日本ハンドボール協会創立75周年記念誌に以下の誤植が判明いたしました。謹んで訂正を致します。なお、関連部分は、日本協会創立60周年記念誌では、正確に記載されております。

関係各位には、ご迷惑をお掛け致しましたことをお詫びいたします。

【日本ハンドボール協会創立75周年記念誌　訂正表】

339頁
第45回全日本総合決勝
北國銀行　27－26　シャトレーゼ
（7－15、15－7、3－1、2－3）
（優勝メンバー・北國銀行）監督：穂積豊彦／選手：古澤さとこ、松田史佳、坂井千鶴、上出恵美子、松下由紀子、山崎智美、金兌英、谷本泉、沖園美穂、西川和江、白永蘭、釣川まゆ子、田中美代子、長谷川真弓、松田るみ。

519頁
全国小学生大会　第10回
開催地　（誤）京都府・京田辺市　　（正）滋賀・長浜ドーム

男子U-16日韓スポーツ交流（派遣・受入）

派遣：2013年8月30日（金）－9月4日（水） 韓国・大田（テジョン）
〈親善試合（9月2日）〉 日本 19（10－10，9－13）23 韓国
受入：2013年9月6日（金）－11日（水） 味の素ナショナルトレーニングセンター（非公開）
〈親善試合（9月7日） 埼玉県・三郷市総合体育館〉 日本 46（22－9，24－10）19 韓国

U16（男子）日韓交流を終えて

団長 志々場修二

はじめに日韓交流に際しご理解ご協力いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。特に受け入れの際の親善試合の共同開催を承諾していただいた日本リーグ機構、当日ご協力いただいた埼玉県ハンドボール協会の方々には心より感謝申し上げます。2013年度U16（男子）日韓交流は、派遣8月30日から9月4日、受け入れ9月6日から11日の日程で行われました。派遣においては韓国大田市で、受け入れにおいてはANTC、親善試合は埼玉県三郷市で行いました。

U16は、初めての国際試合であるため、ハンドボールの競技力向上だけでなく、いろいろな経験を通しユース・ジュニアのカテゴリーにつなげていく意味で重要な役割をもっていると考えています。今回も国外へ行く際の準備・行動から意思統一し派遣・受け入れと臨みました。ハンドボールにおいては、この先継続してライバルとなる韓国との初めての試合ということで、ここで叩いておくことの重要性をチームで共通認識しトレーニングを積み親善試合に臨みました。

親善試合においては、韓国ラウンドではコンディショニングの難しさ等抱えながらのゲームとなり、勝てる試合を落としてしまいました。また国際試合におけるアウェイでの厳しさ等を経験しました。このすべての経験を教訓にし、臨んだ受け入れでの親善試合では、スタッフ・選手が課題を克服しすばらしいパフォーマンスで快勝することができました。今後の韓国との戦いにおいては大きなアドバンテージとなったと思います。

また、多くの方々が三郷市総合体育館に駆けつけていただき、その声援が大きな力となりました。

この日韓交流を経験してスタッフ・選手共に今後の課題を明確にすることができ、ユース・ジュニアのカテゴリーの際には大きく成長できるよう継続して努力していくことを確認し、報告とさせていただきます。

コーチ 阿部 直人

はじめに、日韓交流にあたりご尽力いただいた方々に心より厚く御礼申し上げます。

【派遣】初めての国際試合を経験する選手には、ハンドボールだけでなく荷物の準備、空港での手続き等いろいろな指導をすることが必要なU16チームです。選手はあらゆることをみんなで協力し臨むことができました。

派遣での親善試合にむけては、ディフェンスにおいての1：1の際のコンタクトにこだわって行いましたが、韓国バックプレイヤーの粘り強い1：1に対応できず、ファウルが多くなり退場者を続出する結果となりました。勝ち試合を逃した悔しさ、1点の重みを痛感し、そして国際試合で勝つ難しさをスタッフ・選手が経験し帰国しました。

【受け入れ】受け入れでは、ANTCという環境面ではすばらしい場所でトレーニングを積み、親善試合に臨むことができました。派遣の際のコンディショニング、そして戦術面での教訓をいかし、トレーニングを2日間積み親善試合に臨みました。特にディフェンスにこだわることを意思統一しました。強いコンタクト、一人の動きに同調し全員で動くことを徹底し試合を迎えました。親善試合では、たくさんの観客の中、前半は緊張から硬い入りでしたが、こだわってきたディフェンスが機能し、失点をおさえ快勝することができました。

【最後に】今回のU16は選手権ではなく交流でありますが、スタッフ・選手はいろいろな経験ができました。今後は、ユース・ジュニアのアジア選手権ではより厳しいトレーニングを積んでいかなければ「アジアの壁」を突破できないことは確実です。今夏ハンガリーで行われた世界ユース大会に続けて出場することができるよう、スタッフ・選手一同努力し世界に通用する日本を目指し、日々精進していきます。

U-16日韓交流戦を終えて

浦和学院高等学校 山本 祐輝

私はU－16日韓交流戦を通して、様々なことを経験しました。全国各地から集められたライバルたちが手を取り合い、日の丸を背負って戦うこと。異国の地で、言葉も通じない相手とハンドボールで戦うこと。全てがとても新鮮でした。

迎えた韓国ラウンドでは、初めての代表での試合ということで緊張し、チーム全体の動きが硬く、後半途中で点差をつけられ、4点差で負けてしまいました。残された日本ラウンドでは、必ず勝ちたいという思いがチームを一つにしました。

迎えた日本ラウンド。序盤点差が離れず、思うようにいかない時間帯もありましたが、自分たちで声を掛け合い、ゲームを作っていくことができました。全員得点といううれしい結果も残し、46対19の大差で勝つことができました。



U－16 に選ばれて、とても貴重な経験をさせていただきました。今後は自分の感じ取ってきたことを自分のチームに伝えていきたいです。そして、また次のカテゴリーでも選ばれるよう、代表選手として努力をしていきたいと思います。

U16 日韓交流大会に参加して

藤代紫水高校　滝川　潤

私は、今回 U16 の日韓交流大会に参加させていただきました。初めて日本代表のユニホームに袖を通し、日の丸を胸に韓国とホーム＆アウェイで戦いました。

韓国での試合は、退場者が相次ぎシュートミスからの得点を許してしまい、自分たちの思うような試合ができずに僅差で敗れてしまいました。この試合の後、監督、コーチ、選手皆が韓国に日本ラウンドで倍返しをする事を誓いチームに新たな一体感が生まれました。

日本ラウンドでは、試合開始から練習してきた DF が機能し、オフェンスでも一人一人が前を狙いチーム一丸となり、韓国に大差をつけて勝利することができました。この日韓交流で韓国に勝利することができたのは、今後のハンドボール人生に大きな自信となり、東京オリンピックが決まった日に韓国に勝てたことも忘れられない思い出になりました。

そして、未熟な私たちを御指導して下さった岩本監督、阿部コーチ、近藤コーチには世界で戦うことに必要なプレイや日の丸を背負って戦うことの自覚と責任を教えていただきました。トレーナーの市川さんには、私達のケアや食事面でもサポートしていただきました。ANTC では、田中さん、市來さん、大城さんにも大変お世話になりました。私を含め今回集まった選手みんなが、たくさんの方たちに感謝しています。

そして次はユースの代表選手として、先輩達のようにアジアで勝って世界選手権に出場し、そこで活躍するためにも、今回学んだことを忘れずにチームに帰って自分自身も努力し続け、お世話になった方たちに恩返しができるようにしたいです。本当にありがとうございました。

戦評

■9月2日（月）韓国・大田（テジョン）

日本　19（10－10，9－13）23　韓国

日本は、川崎、松岡、山本（晃）、利光、大橋、山本（祐）、GK 中村のスターティングメンバー。立ち上がり松岡のカットインで先制、その後も山本（晃）のロングシュート、松岡の１対１からのミドルシュート、GK 中村の PT セーブ等で流れをつかみ 15 分６対４とリードする。しかし、ここから退場者を出し苦しい展開に。韓国のカットイン、サイドシュートで追い上げられ前半を 10 対 10 で折り返す。

後半、比嘉のインターセプトから大橋の速攻、利光のカットイン等で流れをつかみ８分 14 対 12 とリードする。が、ここから前半同様退場者があいつぎ、失点が続き、残り５分で 17 対 21 と４点リードされる。日本も土橋のカットイン等で粘るも 19 対 23 で試合終了となった。

日本は終始、ジャッジの基準にあわせることができず、計９回もの退場が出た。この悔しさを心に刻み、チーム一丸となり、日本ラウンドでは必ずリベンジすることを誓った。

■9月7日（土）埼玉県・三郷市総合体育館

日本　46（22－9，24－10）19　韓国

韓国ラウンドでの悔しい敗戦を糧に 3-2-1DF を修正して臨んだ日本ラウンド。スターティングメンバーは、大橋、川崎、山本（晃）、山本（祐）、利光、比嘉、GK 中村。比嘉、利光、川崎のハードなコンタクトから周りの連動にこだわり、その DF が開始から機能し山本（晃）、利光の連続速攻で２対０とする。その後も比嘉のアグレッシブなトップ DF で相手のミスを誘い一気に点差を広げ、前半を 22 対９で折り返した。

後半に入っても DF でフットワークが止まることなく、GK 中村、前田の好セーブもあり常にセーフティーな点差を維持しゲームを展開、全員出場で快勝した。

韓国のバックプレイヤーの１：１に対するハードコンタクト、そして抜かれた後の速いカバーリング等、強化合宿でこだわってきたことを体現することができたゲームであった。そして、ユース、ジュニアと次の世代につながるゲームとなった。

[個人得点] 比嘉：11 点、松岡：8 点、山本（祐）：6 点、山田・土橋：4 点、大橋：3 点、山本（晃）・川崎・山川：2 点、重藤・岸・滝川・石丸：1 点

女子 U-16 日韓スポーツ交流（派遣・受入）

派遣：2013 年 6 月 26 日（水）－ 7 月 1 日（月） 韓国・慶南（ギョンナム）
〈親善試合（6 月 30 日）〉 日本 16（7 － 8, 9 － 14）22 韓国
受入：2013 年 10 月 10 日（木）－ 15 日（火） 愛知県・名古屋市（プラザー体育館、大同特殊鋼体育館）
〈親善試合（10 月 13 日）・プラザー体育館〉 日本 23（11 － 5, 12 － 12）17 韓国

監督 尾石 智洋

東京オリンピック開催決定と夢開かれた中、今年度も、JOC の事業として、U16 韓国との交流及び親善試合を行わせていただきました。今年度は韓国のヘッドコーチが U18 のヘッドコーチも兼務されていたため日程調整が難航致しましたが、6 月に韓国で行い、10 月に日本での受け入れとなりました。この為、間での課題確認や練習が出来たことは（夏休みに強化合宿実施）チーム力向上及び個人技能を伸ばしていく上でプラスになりました。また、アカデミー生（U15 － 16）との連携が出来ているため目的意識もはっきりし、この段階で、勝つことだけが目的ではありませんが、韓国に立ち向かう気持ち、代表としての責任等、これまで以上に意識の向上が備わっていると感じました。そして U16 がナショナルへの登竜門だとの認識のもと試合を迎えることができました。

韓国ラウンドにて、テストマッチでは優勢に展開していたものの、親善試合では、ポイントゲッターの大型ポストをここというところで止められず、また速攻やサイドシュートへの対応も不十分になり、惜しくも負けてしまいました。試合後にすぐミーティングし課題を確認し、日本ラウンドに繋げようと試みました。韓国チームの単純ではあるが正確な技術を改めて確認することもできました。

日本ラウンドでは、テストマッチも有効な練習となりスピード UP・シュート力 UP はもちろんのこと、正確なプレーができるように判断力 UP（とにかく頭を使う）を中心に練習を進めました。

親善試合は、国歌斉唱より緊張感を持ちたくさんの観衆の中行わせていただきました。前半途中から日本ペースが続き、「心・技」共に韓国を上回りました。後半途中韓国の DF チェンジ（6 － 0→3 － 3）の際に一度流れを掴まれそうになりましたが、冷静に正確に判断でき 3 年連続の勝利を収めることが出来ました。確実に日本の力は上がっています。これは日本中の小中高の育成方法が向上していることと、ジュニアアカデミー等の強化方法との連携がうまくいっているからだと考えます。今後さらに、大切なものをしっかりとこだわり、強化していくべきだと思います。

東京にオリンピックが決定し、夢のあるこの世代。これからも課題をしっかりと見つけ日々努力してくれることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご尽力いただきました、愛知県協会、HC 名古屋、大同特殊鋼、JOC 愛知県選抜、JOC 福井県選抜、愛知県中体連等たくさんの方々に感謝いたします。ありがとうございました。

主将 青 麗子

今回の U16 日韓スポーツ交流を通して、韓国チームとハンドボールで戦って技術を学ぶことができ、そして絆も深め合うことができました。

言葉が通じない時に、共通語として英語がありますが、「ハンドボール」という競技自体が、お互いに共通するものだと改めて感じました。ハンドボールを通して心の交流が出来ました。戦いあったり喜びあえたり、いろいろ韓国チームと分かち合えました。

本大会では接戦でも日本のチームらしく、最後まで諦めずに楽しく、真剣にハンドボールができました。韓国ラウンドでは惜敗しましたが、日本ラウンドでは、ゴールキーパーの好セーブやアクシデントもあり、みんなで励まし合い勝利することができました。これまでV3してきた中で、点差が6点差と今まで以上に快勝することができました。これからのカテゴリー（U18等）でも、7年後の東京オリンピックでもまた韓国に勝ちたいと思います！



たくさんの方々の応援を受けてとても感謝しています。ありがとうございました。

戦　評

■6月30日（日）韓国・ギョンナム

日本　16（7－8、9－14）22　韓国

前半は、日本のスローオフでゲームが開始された。試合開始1分で、前田のサイドシュートが決まったものの、すぐに韓国が速攻とサイドシュートで2点奪取した。その後、両チームともミスが続いたが、相澤、谷のカットインや速攻が決まり、日本のリズムで1点差のゲームを展開することができた。しかし前半終了間際、韓国のサイドシュートが決まり、7対8韓国リードで終了した。

後半は、韓国のスローオフで試合が再開された。日本は青の退場によりDF5人からのスタートとなった。韓国の速いステップワークを生かした攻撃でDFを崩され、立ち上がり5分で日本が3点差を追いかけるゲーム展開となった。しかし青、渡部が韓国チームのエースとポストをよく守り、前田の活躍で日本のリズムを取り戻したが、残り5分で韓国チームに連続得点を許し、16対22でゲームを終了した。

ややミスが目立ったゲームではあるが、日本チームは監督を中心に最後まであきらめることなく粘りのあるゲームをすることができた。また選手たちは、韓国の力を体感したことで、自分の成果や課題を明確にすることができ、10月の親善試合に繋がるゲームにすることができた。

［個人得点］相澤・前田：4点、谷：3点、青・安藤：2点、林：1点

■10月13日（日）愛知県・名古屋市

日本　23（11－5、12－12）17　韓国

前半、韓国のスローオフでゲームが開始された。先取点は韓国のポストプレーであったが、日本も負けじと、前田、谷の速攻と安藤のサイドシュートなどで3連取し、日本チームリードでゲームが展開された。韓国チームの速いカットインで4対3と迫られたが、大沢の度重なるナイスセーブによりリズムを取り戻した日本は、前田、林、両サイドの速攻や渡部、相澤のカットイン、青のポストプレーがたて続けに決まり、前半11対5の日本リードで折り返した。

相澤のミドルシュートが決まり、後半日本の流れのままゲームが開始されたように見えたが、その後韓国チームの怒濤のカットインや高めの3－3DFなどを仕掛けられ、徐々に韓国のペースにのまれ始めた。韓国チームが流れに乗る前に日本チームはタイムアウトをとり、落ち着きを取り戻した日本選手は、谷のカットインを皮切りに、林の速攻、青のポストプレー等で韓国のリズムを崩し、最後まで日本のペースでゲームが展開でき、快勝することができた。

韓国11番のMOON・SUHYEON選手1人に9点取られるなどの課題も残るが、強く前向きな気持ちで終始闘うことができ、次のカテゴリーに繋がるゲームができたことは間違いない。試合後、お互い言葉は通じないものの、コートの上で真剣勝負をしたからこそお互いを称え合い、また良きライバルとして認め合う事ができた。7年後の東京五輪で再会を誓い合った。

［個人得点］前田：7点、谷：4点、相澤・渡部：3点、青・林・安藤：2点

～「東京」と「熊本」でタッグを～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

2020年東京オリンピック招致が決まったが、その前年の2019年、熊本で女子世界選手権の開催も決まった。プレ五輪としては最高のタイミングである。

熊本では1997年に男子の世界選手権を開催した経緯がある。開催候補地としてノウハウを持ち合わせているのも強みだったと言えよう。

この機会をとらえ世界の強豪国とのコンタクトがとれることは、日本にとってまたとないチャンスである。

東京オリンピックでは文科省も東京あるいは首都圏だけでなく、日本各地での参加国キャンプ地なども認める方向のようだ。

国内各道府県にとって、スポーツを通しての地域活性化には、もってこいの話である。また、練習試合なども組めば、国内ハンドボール界のレベルアップにもつながるだろう。

オリンピック、世界選手権には世界の強豪が集うだけに、世界各国とのパイプを太く出来る絶好の舞台でもある。広島アジア大会で成果を上げた公民館と連携した「1国1館」運動なども有意義な手段である。

日本での国際大会にネームバリューのある国、あるいはクラブを呼べるような“ロビー活動”も可能だ。

同じ19年にはラグビーのワールドカップ日本開催が決まっている。相乗効果が期待できるし、2つの競技団体がタッグを組んで開催をアピールすることも可能なはずだ。

日本のハンドボールが世界にはばたくために、ここは何としても成功させなくてはなるまい。男子の開催は正直、その後の波及効果はあまり見られなかった。せっかくのチャンスを逃がしたといってもいいだろう。今度こそはチャンスをしっかりつかみたいものだ。

熊本から東京へ…こうしたタイミングの良さは他の競技団体を眺めてもあまり例がない。熊本で世界とのパイプを太くし、東京につなげば、その後のイベントへの効果がかなり高まることになるだろう。

東京、熊本が手を携えて世界のスポーツ界に改めて「日本」を認知させることが大切である。この絶好のチャンスを逃がせば、日本のハンドボールは世界の舞台からおいていかれるかもしれない。日本の地位をしっかり確立することが出来れば、ファン、国民の関心は高まり、日本のスポーツ界での認知度も確実に上がってくることになるはずだ。

せっかくの2年続けて世界の強豪が日本に集うビッグチャンス。キャンプなどの候補地を早く決め、参加国へ“売り込み”にできる限り早く取り組みたい。方法はいりいろいろあるだけに、この際はハンドボール関係者挙げて準備⇒本番へ取り組んでいきたいものである。

日本ハンドボール学会／日本ハンドボール協会共催

第1回コーチングセミナー開催報告

日本ハンドボール学会理事長
會田　宏

平成25年10月19日、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて、日本ハンドボール学会／日本ハンドボール協会共催·第1回コーチングセミナーを開催しました。テーマは、「機動力と判断力を養成する日本代表女子チームのトレーニング―オリンピック出場に向けた技術・戦術・フィジカルトレーニングの実際―」でした。講師は、日本代表女子チームの栗山雅倫監督、古橋幹夫サポートコーチ、高野内俊也トレーナーの3名でした。日本代表女子チームのゲーム構想と、その実現のための戦術トレーニング、技術トレーニング（動きづくり)、フィジカルトレーニング（身体づくり）が、実践を通して紹介されました。日本ハンドボール学会の会員、一般の参加者あわせて53名に参加していただき、活発なセミナーを開催できました。開催にご尽力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

ここからは、参加者の仙波慎平さん（筑波大学・研究生）が本コーチングセミナーの概要を報告します。



第1回コーチングセミナーの開催にあたり、まず日本ハンドボール学会会長・大西武三氏から開会の挨拶がありました。その後、2016年リオデジャネイロオリンピックに向けて昨年10月からスタートした日本代表女子チームのトレーニングとそのねらいについて講義と実技が行われました。その内容は以下の通りです。

1.「日本代表女子チームの取り組み」（講義）

栗山雅倫氏（日本代表女子チーム監督／東海大学）

まず日本代表女子チームが目指す攻撃構想が紹介されました。キーワードは、「total mobility」でした。速攻占有率の高いゲームを展開するために、さまざまな状況に対応できる機動力、判断力、感性を高めることを目標に、日本人の素早さと巧みさを生かす戦い方を実践していることが説明されました。また防御構想については、フィジカルの強い海外の選手に対抗するために、超予測的、超積極的な防御活動をベースに、低い姿勢から相手にハードコンタクトできる爆発的な力をもった選手を育成していることが説明されました。最後に、韓国やヨーロッパ諸国との対戦で得た経験をもとにリオデジャネイロオリンピック出場のために現状を打破し、日本ハンドボール界に一隅を照らしたいという決意が表明されました。

2.「戦術トレーニングの実際：判断トレーニングを主体として」（実技）

栗山雅倫氏（日本代表女子チーム監督／東海大学）

実技では「ストーリーと目標を持ったトレ· ニング」をテ· マに、判断力を養成するトレーニングが紹介されました。まず、ウォーミングアップではさまざまな課題を含ませたパスゲームが行われました。課題とは、例えば、パス回数が3の倍数または3がつく数字の時には、必ずゴールキーパーにパスを返すといったもので、常に「頭」を使わなければ解決できないものでした。攻撃では、いくつかのオープニングプレーを使って、防御プレーに応じるトレーニングが行われました。攻撃側が数的有利になる状況を設定し、防御と駆け引きしながら、有利なシュートにつながる精度の高いパスを出すことがねらいになっていました。引き続く練習は、防御との「ずれ」を有効に活用するためのトレーニングでした。バックとサイドで2対1(プラスワン)を攻める状況を設定し、それを使い切る能力を養うためのトレーニングが行われました。防御では、予測とコンタクトの激しさをテーマにしたトレーニングが紹介されました。いかに相手のパス回数を増やし、ミスを誘発させるかがポイントでした。そのためにパサーにプレッシャーを与えること、積極的にチャレンジをすることが指示されていました。また、センターとポストプレーヤーを守る2対2の状況において、時にはポストプレーヤーを捨ててセンタープレーヤーに積極的にアタックさせる場面も多くありました。

3.「身体づくりの実際：動きづくりとの連動を目指して」（実技）

高野内俊也氏（日本代表女子チームトレーナー／日本予防医学協会）

ここでは機動力を継続的に爆発力あるものにするために、日本代表女子チームが行っているフィジカルトレーニングが紹介されました。そのねらいは、海外の選手とのファーストコンタクトで止めることができる強い身体をつくることでした。立位トレーニングでは低い姿勢から力を出すためにスクワットポジションを正確に作り、そこからタオルや棒を使ってひねりを加えるトレーニングが行われました。体幹トレーニングでは自体重をベースにした1分間のトレーニングが紹介されました。

4.「動きづくりの実際」（実技）

古橋幹夫氏（日本代表女子チームサポートコーチ／石川県小松市立高等学校）

ここではスピードを落とさずに方向転換するため、またフェイントにおける歩幅を大きくするための動きづくりのトレーニングが紹介されました。フェイントにおける大切なポイントである、頭と足の運び方について詳細な説明がされました。例えば、両脚フェイントの場合、ボールキャッチと同時に沈み込み、行きたい方向と逆に頭を残し、足は進む方向に準備するというものでした。また回転フェイントでは、ポストプレーヤーの育成に役立つ指導ポイントが説明されました。それは、ディフェンダーに上からつかまれた場合は、体勢を低くして沈み込み、肘をあげる（張る）こと、下から押し上げられた場合は、ディフェンダーとの距離をあけることでした。一つひとつの動きの意味が説明され、フェイントや方向転換の動きづくりのポイントが細部に渡って紹介されました。

最後に、日本ハンドボール学会副会長・平岡秀雄氏から閉会の挨拶がありました。

今回のセミナーで紹介された内容は、日々のコーチングに生かせる内容でした。熱心に講習してくださった3名の講師の先生、企画運営を行ってくださった田村修治先生をはじめとする東海大学の先生・大学院生の方々、デモンストレーションを行ってくださった東海大学女子ハンドボール部のみなさんに感謝いたします。



ヨーロッパのハンドボールLIFE

ドイツでプレーして思った事

ZHC Grubenlampe（グルウベンランペ）
稲本圭亮

ドイツザクセンリーガの、ZHC Grubenlampe（グルウベンランペ）に所属している稲本です。所属しているチームはドイツザクセン州のZwickau（ツヴィッカウ）という町にあるチームで、チームメイトのほとんどはハンドボールとは別に仕事をしているか学生で、外国人は僕とチェコ人の２人だけです。このザクセンリーガというのはドイツ国内の５部にあたるリーグで、ザクセン州の12チームで構成されているリーグです。ZHCは３シーズン前にこのザクセンリーガに昇格してきたチームで、その前は１つ下の６部リーグにあたるフォアバンスリーガに属していました。２シーズン前にこのZHCに移籍してきて今年で３年目になります。昇格した年のシーズンは11位という順位でしたが、一昨年のシーズンでは２位、去年は３位という順位で、今シーズンこそは昇格を目指しているチームです。

ドイツに行こうと思ったキッカケは、約５年間日本リーグのトヨタ自動車でプレーしていましたが、トヨタ自動車が日本リーグではなくチャレンジディビジョンへの参入が決まった事により、日本リーグでプレーする事が出来なくなったことです。でも、自分の中ではまだ日本リーグでプレーがしたいという気持ちと、前々から思っていた海外でプレーしてみたいという２つの気持ちがありました。そんな時にチームの先輩に一緒にドイツにトライアウトを受けに行かないかと誘われたのがキッカケです。ただ正直その時は不安でした。会社を辞めてまで海外でハンドボールをする意味があるのかとか、それこそ日本リーグチームに移籍した方がいいかなとか色々考えたりしましたが、相談した結果どうせハンドボールをするなら海外でプレーしたい！という気持ちになり、その後、トライアウトを受けに行き当時のデーリッチの２軍であればプレーしてもいいと言われプレーする事に決めました。

ドイツでの選手生活はやはりハンドボールが中心になり、コンディションの調整も日本でプレーしていた時よりも専念しやすい環境だと僕は思います。もちろん日本でプレーしていた時も自己管理は大切だと思っていましたが、今はそれ以上に自己管理が大切だと思っています。それと、１年目に感じたことはハンドボールの違いです。ドイツのハンドボールはパワーで押しきるといった感じが多いのと、高さの違い、それとシュートタイミングとシューターのシュートする時のリリースポイントの違いに初めは戸惑いましたが、練習や試合をする事でドイツのハンドボールに慣れていきました。１年目、２年目は試合の出場機会が少なかったので色々自分の中で不満などもあったりしたけれど、出場した試合で少しでも結果を出せるように心がけていました。それでも高さの違いには今でも苦しんでいますし、正直言って自分の弱い部分だと思っています。考え方の違いはあると思いますが、高さでは絶対に勝てないと思っているので、割り切るようにはしています。言い方は悪いかもしれませんが、シューターが上手く、そこにシュートを打たれたらもう仕方がないと思い、切り替えて次のシュートを止めれば大丈夫だと思って試合をするようになりました。

後は、モチベーション（気持ち）を常に良い状態で保つという事が大事だと思います。

言葉の壁はあるので、そこでコミュニケーションが取れなかったり、試合にも中々出られない事もあります。でもそこで気持ちを切らさないで、どれだけモチベーションを落とさずに保てるかというのも、難しいけれどドイツでプレーするには必要だと感じました。今の自分が常に良い状態を保っているかと言えばそうではないので、これは自分にとっても今後の課題だと思っています。

ここからは、プレーしてきたチームとそのチーム事情について触れてみます。

まず１年目のデーリッチではリーグ期間中は週に３回の練習で、リーグ前の７～８月は週５回の練習をしていました。デーリッチの時の条件は、住む家だけは提供されハンドボールでの給料といったものは貰えていませんでした。ですから、親の援助という形で生活をしていましたし、提供された家も当時はデーリッチに僕も含めて４人の日本人がプレーしていたので、その４人で一緒に住んでいました。

２年目はデーリッチの監督が新しいチームに行くことになり、一緒に来ないかと誘われ、それで、一緒に行くことに決めて、SV Koweg Görlitzというチームに移籍しました。このSV Koweg Görlitzも３年前にザクセンリーガに昇格したチームです。２年目も１年目とほぼ同じ条件で、住む家の提供と語学学校の授業料は払って貰っていましたが、やはりハンドボールでのお金は貰えていなかったので２年目も親の援助を受けて生活をしていました。ゴーリッツでは毎日午前中は語学学校で語学の勉強をし、練習はチームメイト達のほとんどが仕事をしていたのもあって、リーグ前、リーグ期間中、共に週に３回でした。

３年目に今所属しているZHC Grubenlampeに移籍してきたのですが、何故今のチームに移籍してきたかというと、ゴーリッツでは出場機会が少なく不満もあり、このまま残っても変わらないと思ったのと、２年間親の援助で生活をしてきて、さすがに３年目は親に援助してもらうのは厳しいと思い、当



時 BSV Sachsen Zwickau でプレーしていた内林絵美さんに間に入ってもらい、チーム関係者と話をして移籍を決めました。ZHC での条件は、住む家の提供と語学学校の費用そして、それなりに生活できる給料を貰えるようになり、３年目からは親の援助はなくなりました。今のチームも練習はリーグ前、リーグ期間中、共に週に３回で、チーム練習がない日は個人で筋トレなどをしています。

ヨーロッパのハンドボール状況については、そんなに詳しくはないですが、やはり金銭的な問題で、経営困難なチームも少なくないと思います。シーズン開始前にチームが破綻してしまうのはまだいいかもしれませんが、シーズン途中にチームが破綻してしまいライセンスを破棄するチームもあります。（シーズン途中のライセンス破棄は昇格したチームに多いかもしれません）上のリーグになればなるほど、チームの出費が増えるので、こういった問題が起きる場合もあります。またこういった問題にはスポンサーとの関係が大きいと思います。例えば、今まで付いていたスポンサーが離れ、チームの運営費が大幅に減ったりしてしまえばどうしても経営困難になります。新たにスポンサーを獲得してチームの運営を持ち直す場合もあると思いますが、そうでない場合はチーム運営もですが、主力選手が抜けてしまったりして、さらに厳しい状況にもなりかねません。

話は変わりますが、ここ数年ブンデスリーガ１部でプレーしていた選手が、自国のリーグに戻ってプレーすることが増えていると思います。特にフランスのチームに移籍する選手が多い気がします。その選手のほとんどがフランスの代表選手ですが、以前 THW Kiel でプレーしていた、ニコラ・カラバティッチ選手がフランスに帰ったあたりぐらいからその傾向が強い気がします。今年もキールのダニエル・ナルシス選手、ハンブルグのイゴーリ・ヴォリ選手がパリのチーム、キールのティエリ・オメイヤー選手がモンペリエでプレーしています。日本ではこういった選手の移籍は少ないと思いますが、ヨーロッパでは毎年こういった選手の移籍などがあります。

ドイツでの選手生活の所でも自分が思うドイツのハンドボールと日本のハンドボールの違いを少し書きましたが、監督の指導方法や考え方なども違い、一番驚いたのはドイツのユーゲント（日本でいう中学生）を教えている指導者でボールの投げ方を教えている人を僕は見たことがありません。投げ方は人それぞれで、中にはそんな投げ方でよくシュートを打てるな、と思う事もあります。小さい時から自分にあった投げ方をしているからこそ、それに必要な筋力も自然について、尚且つ柔軟なフォームが作られるんだろうなとも思います。この指導方法が日本人に合うかどうかは分かりませんが、ボールの投げ方は教えずに個人の投げやすいようにしてもいいのではないかと思います。それと、ボールの話なのですが、日本では男子・女子共に中学生は２号球を使用していると思いますが、ドイツの女子のユーゲントは練習中は２号球を使用している子もいるのですが、試合は１号球を使用しているという話を聞いたことがあります。これを聞いた時はビックリしましたが、話を聞いていると理に適ってるなと思いました。１号球を使用することで、しっかりボールを持つことができ、色んなバリエーションのシュートだったり、パスだったり、それこそ肘を使うヨーロッパ選手特有の打ち方を女子のしかもユーゲントの子達ができるようになります。日本人はドイツ人に比べると体格は小さいですし、ましてや中学生の女子はまだ体が出来上がる前なので２号球は大きすぎる子もいると思いますし、ボールが持てずにプレーしてもいいプレーは出来ないと思います。ボールサイズに関しては日本でも取り入れても良いのではと思います。

ドイツでの練習はいつも激しいプレーをしています。日本では練習で激しいプレーなどは怪我をさせてしまってはいけないという心理があり、あまりしないと思いますが、ドイツでは関係なしで、まるでケンカみたいな事がよくあります。でもこういった激しいプレーを練習中からしているからこそ、ハンドボールでしか付かない筋力がつくんだろうなとも思いました。

ここまで僕がドイツでプレーして思った事や、ヨーロッパの事情を僕なりに書きましたが、これから海外でプレーしたいと思っている選手もいると思います。（特に今の中高生）そう思っている選手は、僕は思い切って海外でプレーしてみてもいいと思います。ただし海外でプレーする事には色々と大変な事や苦労はありますが…。やらずに後悔するより、やって後悔した方が僕はいいと思うし、自身、今ドイツでプレーして自分にプラスになっていると思うし、ハンドボールがより一層楽しいって思うようになりました。



先日 2020 年東京オリンピックが決まりました。日本代表には少しでもメダルに近付けるよう頑張ってほしいですし、これを機に日本でのハンドボール人気が盛り上がる事を期待しています。

脱水対策としての尿検査によるコンディショニング検討

国立病院機構三重病院　**貝沼圭吾**

9月にタイ・バンコクで開催されました第5回アジア女子ユース選手権大会において、日本ハンドボール協会初の試みとして、サッカー日本代表が南アフリカワールドカップで取り入れた尿検査によるコンディショニング方法を施行しましたので、その一部をご紹介させていただきます。

今回は、9月のバンコクという非常に暑い環境下での大会、また参加選手の大半が初の海外遠征であるという点から、体調不良（特に下痢などの消化器症状）を起こすと考えていたため、脱水によるコンディションの悪化が最も大きな不安要素でした。そのため、体内水分環境を日々チェックするため、尿比重を用いた評価を行いました。

尿比重は言い換えれば尿の濃さを示す数値です。通常であれば腎臓によって体内の水分バランスを調整され、比重1.010前後に調節されています。体内が水分不足の状態であれば、尿に用いるだけの水分が足りないために尿は濃くなることになります。スポーツ選手を対象とした尿比重の目安はオーストラリアからの報告によれば、1.020より高値の場合は脱水状態とみなすとされていました。脱水がスポーツにおけるパフォーマンスを低下させることは明らかなことであり体内水分量の2%を喪失した状態であれば、判断能力が低下するとされています。

〈方法〉

日本での直前代表合宿から大会最終日まで、連日起床後第一尿と夕方の練習、試合後の第一尿を採取し、尿比重計を用いて計測した。また選手には同時にアンケートを行い、セルフチェックを行った。

また今回は大会期間中に本検討の意義目的などを講習する機会を頂戴したこともあり、選手の水分摂取への意識を変容することができたため、その点を踏まえた報告を行う。

〈結果〉

①全選手での検討（平均値）

練習前尿比重（講義前）：1.0248
練習後尿比重（　〃　）：1.0277　変化：+0.0029
練習前尿比重（講義後）：1.0227
練習後尿比重（　〃　）：1.0234　変化：+0.0007

②運動強度が最も強かったメンバーでの検討（平均値）

練習前尿比重（講義前）：1.0221
練習後尿比重（　〃　）：1.0262　変化：+0.0041
練習前尿比重（講義後）：1.0196
練習後尿比重（　〃　）：1.0242　変化：+0.0046

③運動強度が中等度のメンバーでの検討（平均値）

練習前尿比重（講義前）：1.0295
練習後尿比重（　〃　）：1.0312　変化：+0.0017
練習前尿比重（講義後）：1.0285
練習後尿比重（　〃　）：1.0245　変化：-0.0040

④運動強度が低めであったメンバーでの検討（平均値）

練習前尿比重（講義前）：1.0258
練習後尿比重（　〃　）：1.0278　変化：+0.0021
練習前尿比重（講義後）：1.0235
練習後尿比重（　〃　）：1.0218　変化：-0.0017

〈結果のまとめ〉

①脱水基準値である1.020以上である選手の割合が非常に多い（特に講習前は16名中14名）

16名中12名が講習会ののちに水分摂取量が増え、朝の尿比重値が下がった。

②練習・試合前後での尿比重がおよそ0.0026の変動を認めているが、運動強度別に分けると、強度が最も強い群がほかの2群に比べ、変化が大きいことがわかる

③講習会を施行したことにより、比重の全体的な平均値も下がり、水分摂取を強く意識したと考えられる。運動強度の強い群では、練習前後での比較ではあまり変化は認めないものの、練習前の比重値が1.019と正常値に近い状態となっており、練習後に体力をもどすため水分をしっかりと取ったと考えられる。

個別には記載しなかったが、下痢を認めた選手は明らかに尿比重が高値となっていた。

〈考察〉

・今回の尿比重測定は、選手たちの体内水分量をおおまかに把握することができ、有用と考えられる

・女子選手ということもあり、もともと水分摂取が少ないのではないかと考えられ、各指導現場において夏季における水分摂取の重要性を発信してもよいものと考えられる（摂取する水分量、摂取物について）

・今回の反省として、現地では体重測定を行わなかった。体重を同時に評価することで、体内水分喪失量と尿比重の関係をもう少し明確にすることができ、より水分摂取を促しえたものと考える

・今回のように下痢を起こしやすい環境において、この尿比重を見ながら選手に理論的に水分摂取を促す一手段となりえた

・講習会が一つのきっかけとなって、体内水分バランスはより良好なものとなった。もっと早いタイミングで講習会を施行する必要があると考えられた（国内合宿でなど）

・体内環境とプレーのパフォーマンスとの相関を評価することは極めて困難であるが、脱水の強い状態であれば、パフォーマンスが落ちることは間違いない。よって、本手段を用いて、脱水のない状態であることを評価することで、より自信を持ってプレーに臨めるといえるのではないかと考える。

新会長に聞く

公益財団法人 全国高等学校体育連盟 会長
小野　力 氏（神奈川県立横浜平沼高等学校 校長）



全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」という）は昭和23年6月に創設され、昭和38年に第1回全国高等学校総合体育大会を開催した。また、ハンドボールを始め各競技専門部が誕生し、各種の競技大会が全国規模で開催されるようになり、平成13年3月9日、全国高体連設立の趣旨を踏まえ、全国高校総体をはじめとする各種大会の一層の充実・発展を目指し、50数年の歴史を持つ全国高体連を財団法人化した。そして平成24年4月1日、内閣府より認定を受け、公益財団法人としてさらに新たなスタートを切った。現在は、約120万余の高校生が都道府県高等学校体育連盟に登録し、全国高校総体をはじめ各種の大会で日々の練習の成果を発揮している。

その全国高体連は平成25年10月11日、新会長に神奈川県高体連会長で横浜平沼高の小野力校長が同日付で就任したと発表した。平池徳見前会長が、自身が校長の高校で体罰があったことを理由に辞職したことによる就任であり、任期は2015年5月までとしている。今般、新会長に就任された小野会長に、就任の抱負や今後の取り組み等について伺う機会を得た。

—突然の会長就任となりましたが、就任の抱負を伺います

予想だにしない就任要請であり未だ一ヶ月経過していない現在は、全体の状況を把握しようとしているのが昨今です。改めて抱負とすれば、全国高体連の設立の目的である、「高校生の健全育成を目指す」「競技力の向上」「生涯スポーツ実践の基礎づくり」を再認識したうえで、敢えて言えば、高校生一人ひとりが生き生きと夢をもって生活することが何よりも大事であり、個々人の個性を伸ばし、たくましく生きる力を付けてもらいたいと思います。

—最近の新聞などの報道でも学校内に体罰は未だに有る記事も散見されますが、全国高体連では暴力行為根絶に向けたスローガンとして、「体罰根絶！　しない　させない　許さない」を宣言されています。体罰根絶に向けた現状や取り組みについて伺います

全国高体連の大きな課題である「体罰根絶」に向けては、平成25年4月に他のスポーツ関連団体と協力し、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」を出し、その中で独自に行動宣言を示しました。しかしながら、ご指摘のように運動部活動内での体罰が散見されるのは非常に残念なことです。従って、体罰に関して敢えて全国共通の問題として捉え直し、共通して指導できそうな箇所を、全国共通のルールとして設定し、この共通理解に立った上で全国を挙げて根絶への指導ができれば、より一層の効果があるのではと考えています。その為、全国高体連内に検討組織を作り早急に結論を得られるよう取り組む予定です。このことが社会に向けた発信ともなり、広く賛同が得られる行動をしていきたいと思います。

—組織の課題と方向性について伺います

「体罰根絶」以外の課題として現在目の前にあるのは、2020年開催の高校総体です。東京オリンピック・パラリンピックの競技日程（7月下旬から8月上旬）は、日程が重なるだけでなく、最も深刻なのは宿泊施設の確保が難しいということです。高校総体は、複数の都道府県の協力で実施されており事前の調整で、オリンピックyearに開催される大会を確実に実施していきたいと考えております。高校総体も競技種目が増え、開催費用の見直しや圧縮も課題ではありますが、高校総体の価値をあげる取り組みや努力を続けることも大切であると認識しています。

—ハンドボール競技との関わりを伺います

神奈川県にはハンドボール指導に熱心な先生方が大変多く、旧来より親交を深めております。又、現在勤務の横浜平沼高校はハンドボールの歴史が深く、今年発行された「日本ハンドボール協会創立75周年記念誌」の中でも、"1930年（昭和5年）横浜第一高等女学校（現・横浜平沼高校）がハンドボール部を発足させていたという情報（同校同窓会報「真澄会報」（2011年9月）を得たが、対外試合が行われたかは詳らかではない" と記載されており、改めて同部の現在までに至る歴史の重さを痛感しています。又、2年前に岩手で開催の高校総体ハンドボール競技に神奈川県出場チームの応援に駆けつけ、岩手県関係者始め多くのハンドボール関係者と知り合うことができたことは財産です。

—ハンドボール界への要望を伺います

一時期には、マスコミでも選手が取り上げられハンドボールが盛り上がったのを記憶していますが、常時、マスコミでも話題になる様な選手やチームの育成、又、国際試合での戦績も気になるところです。高校生の部活動離れが進む中、どの競技にも言えることですが、指導者の育成と絶対数の確保は必要ではないでしょうか。神奈川県で見ても指導者が居れば部活動ができる環境は多々あり、これから教員を目指す若い方々に大いに期待したいところです。最後に、2019年の女子世界選手権、2020年のオリンピックに向け、ハンドボール競技の益々の発展を祈念しています。

日本ハンドボール協会創立75周年記念誌刊行に寄せて

スポーツ団体やクラブ（チーム）の「記念誌」では、大会記録、試合記録が極めて重要な項目となりますが、踏み込めば〝無限〟に近く、膨大な量でほかの企画や報告のスペースを圧迫します。

「日本ハンドボール協会75周年記念誌」（２０１３年２月刊行）の編集委員会でもその扱いをめぐって多くの意見が交わされました。

結果的に、日本協会の直轄事業である「全日本総合選手権」と「日本リーグ」は全スコアの掲載とし、このほかの大会は「日本ハンドボール史」（87年3月刊行）の続編の感覚で収録することに落ち着きましたが、それでも２８６ページに及び、全体の46パーセント（口絵写真ページ含む）を占めます。

国際試合の記録は、各カテゴリーで日本代表として活躍した選手名を中心に編集。一人ひとりの選手の姿に、読者自身の時代を重ね合わせ、思い出を甦らせていただければ嬉しいのですが…

この場で指摘するのは筋違いかもしれませんが、国際試合の資料が日本協会では充分に整っていません。特に、トップチーム（フル代表）の単発的な試合記録は公式／非公式の区分さえ明確ではなく、選手の個人データに影響しています。外国協会では考えられぬ状態です。

「日本ハンドボール史」の時から完全を期して追い続けている空白に「１９４０年東京オリンピック強化選手」の名簿があります。

１９３８年３月、誕生したばかりの日本協会の記念すべき初事業で、初合宿（横浜・慶大グラウンド）の集合写真は、今回の巻頭口絵の第１ページに掲載してあります。

ここに写る30人のうち３人がコーチングスタッフ、27人が選手とされますが、選手の姓名・所属が分かっているのは20人、姓だけが３人で、４人はまったく不明のまま今日に至っているのです（５４４ページ）。

４人は合宿の手伝いにきた学生では、という説も聞こえていますが、その情報の根拠は薄いようです。

強化選手は37年10月の関東選手権、同11月の全日本選手権（第９回明治神宮体育大会）、両大会出場者から29人が選抜され、合宿には２人の不参加（辞退）が分かっています。もはや日本協会のなかに名簿の手がかりはありません。ご協力ください。

「記念誌」刊行後、１９６４年の東京オリンピックでも、60年に「強化選手」が指名されたという〝話〟が伝わってきました。

この大会は、悲運の削減経過も含め〝不明な部分〟がかなり残っていますが「強化選手」は初耳に近いものがあります。すでにこの時は日本協会機関誌も発行されており、裏付ける記事は見当たりません。歴史の面白さであり驚きです。調べはじめます。

球史への興味が高まり「75周年記念誌」を取り寄せてくださる方が増えています。お手数をかけますが、ぜひ、広めて下さい。

さまざまなハンドボールの楽しみ方の一つに、記録などを通じこのスポーツの日本での歩みに関心を抱いていただけるなら「75周年」のこれに優る〝祝い〟はないでしょう。（完）

杉山　茂・記念誌編集委員



75周年記念誌の誌面より

入手について

1．書籍体裁：B5版　620頁
2．頒布価格：10,500円（消費税込、送料別＊）
　＊地域、数量により送料は異なります。
3．記念誌購入申込方法：申込用紙（日本協会HPよりダウンロードしてください）に、必要事項を記入の上、日本協会事務局までE-mailまたは、FAX（03-3481-2367）にてお申し込みください。
4．送付方法：ご指定の送付先に宅急便にて配送いたします。
5．お支払方法：記念誌送付時に同封の郵便振替用紙にて、ご送金ください。

※なお、記念誌は限定制作のため、頒布数に限りがあります。予定数に達しましたら終了と致しますので、予めご了承ください。この件のお問い合わせにつきましては、日本協会事務局までお願いいたします。

スコアールーム①

第68回国民体育大会

開催期日：2013年10月3日(木)～7日(月)
会　　場：東京・墨田区総合体育館ほか

【成年男子】

▼１回戦

沖縄	32	(17－10、15－14)	24	岩手
宮城	45	(21－9、24－12)	21	富山
千葉	38	(19－10、19－18)	28	岡山

▼２回戦

埼玉	32	(17－16、10－11) (2－2 延長 3－2)	31	沖縄
三重	26	(16－7、10－8)	15	愛媛
福井	31	(16－13、15－10)	23	東京
広島	41	(19－11、22－12)	23	滋賀
宮城	32	(19－13、13－15)	28	佐賀
大阪	37	(18－16、19－13)	29	神奈川
茨城	40	(22－12、18－18)	30	北海道
愛知	32	(17－8、15－6)	14	千葉

▼準々決勝

埼玉	35	(15－7、20－14)	21	三重
広島	25	(9－10、16－13)	23	福井
宮城	33	(17－9、16－16)	25	大阪
愛知	48	(27－11、21－14)	25	茨城

▼準決勝

埼玉	27	(14－12、13－14)	26	広島
愛知	27	(12－10、15－13)	23	宮城

▼３位決定戦

広島	28	(14－11、14－13)	24	宮城

▼決　勝

埼玉	30	(11－12、19－10)	22	愛知

【成年女子】

▼１回戦

熊本	32	(16－6、16－8)	14	和歌山
神奈川	36	(18－13、18－12)	25	宮城
東京	30	(18－13、12－13)	26	香川
広島	31	(17－11、14－12)	23	三重
鹿児島	31	(16－5、15－5)	10	群馬
大阪	34	(18－8、16－2)	10	北海道
福岡	26	(11－8、15－13)	21	福島
石川	35	(15－10、20－9)	19	茨城

▼準々決勝

熊本	35	(18－7、17－4)	11	神奈川
広島	35	(16－10、19－6)	16	東京
鹿児島	38	(16－5、22－9)	14	大阪
石川	42	(25－6、17－11)	17	福岡

▼準決勝

熊本	23	(13－6、10－8)	14	広島
石川	28	(14－10、14－5)	15	鹿児島

▼３位決定戦

鹿児島	19	(9－11、10－6)	17	広島

▼決　勝

石川	22	(11－8、11－10)	18	熊本

【少年男子】

沖縄	33	(13－14、20－11)	25	神奈川
山口	39	(19－13、20－11)	24	京都
岐阜	29	(13－15、16－9)	24	埼玉
岩手	26	(12－7、14－14)	21	福井
茨城	46	(24－12、22－13)	25	北海道
兵庫	53	(27－14、26－14)	28	宮城
香川	24	(14－10、10－11)	21	長崎
東京	21	(10－9、11－9)	18	愛知

▼準々決勝

山口	25	(14－8、11－12)	20	沖縄
岩手	22	(9－9、13－11)	20	岐阜
茨城	41	(22－9、19－16)	25	兵庫
香川	27	(14－8、13－12)	20	東京

▼準決勝

岩手	27	(13－13、14－10)	23	山口
香川	36	(14－14、13－13) (1－2 延長 4－3) (4 7mTC 3)	35	茨城

▼３位決定戦

山口	34	(15－9、19－10)	19	茨城

▼決　勝

岩手	28	(13－7、15－14)	21	香川

【少年女子】

▼１回戦

岩手	24	(10－11、14－11)	22	神奈川
富山	26	(11－5、15－10)	15	千葉
宮崎	27	(13－10、14－13)	23	福島

▼２回戦

香川	29	(13－4、16－3)	7	岩手
愛知	25	(10－10、15－11)	21	茨城
東京	26	(12－5、14－9)	14	岡山
京都	28	(15－12、13－10)	22	沖縄
大分	19	(13－5、6－8)	13	富山
岐阜	24	(10－9、14－4)	13	山口
埼玉	34	(21－12、13－12)	24	北海道
大阪	22	(11－9、11－7)	16	宮崎

▼準々決勝

香川	23	(12－7、11－11)	18	愛知
東京	27	(16－7、11－13)	20	京都
大分	21	(14－5、7－12)	17	岐阜
埼玉	23	(12－12、8－8) (1－0 延長 2－2)	22	大阪

▼準決勝

香川	20	(12－6、8－11)	17	東京
大分	26	(11－3、15－10)	13	埼玉

▼３位決定戦

東京	31	(18－9、13－16)	25	埼玉

▼決　勝

香川	24	(14－8、10－10)	18	大分

スコアールーム②

第11回日本車椅子ハンドボール競技大会

開催期日：2013年10月19日(土)～20日(日)
会場：徳島県鳴門市・大塚スポーツパークアミノバリューホール

▼Ａブロック

宮城フェニックス	31－12	京都伏見スパローズ
宮城フェニックス	32－5	楽楽じゃんぷ
宮城フェニックス	33－2	パッチワークドルフィン
京都伏見スパローズ	16－11	楽楽じゃんぷ
パッチワークドルフィン	17－6	楽楽じゃんぷ
京都伏見スパローズ	14－6	パッチワークドルフィンズ

▼Ｂブロック

ドリーマーズ	16－14	大阪ネルフ
ドリーマーズ	27－9	彦根レイカーズ
ドリーマーズ	16－15	パッチワークワンズ
大阪ネルフ	22－8	彦根レイカーズ
パッチワークワンズ	18－9	彦根レイカーズ
大阪ネルフ	16－10	パッチワークワンズ

▼７−８位決定戦

パッチワークドルフィン	13－11	楽楽じゃんぷ

▼５−６位決定戦

パッチワークワンズ	20－5	彦根レイカーズ

▼準決勝

宮城フェニックス	22－10	大阪ネルフ
ドリーマーズ	21－8	京都伏見スパローズ

▼３位決定戦

大阪ネルフ	15（5－6、10－6）12	京都伏見スパローズ

▼決　勝

宮城フェニックス	23（14－5、9－6）11	ドリーマーズ

▼フレンドリーの部

岩出ハンドボール教室	11－5	ＨＡＣＨＩＭＡＮ

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【宮　城】篠田賢一【茨　城】野村正志【埼　玉】小澤隆志、小澤智子【東　京】相浦美波、泉　直樹、仁平貴士、東尾吉信、荒川晶夫【神奈川】島田信弘、白井　章【富　山】林　裕子【静　岡】細澤　覚【愛　知】柿原和幸、伊藤克美、伊藤十和奈、小林　勇【三　重】福田亜紀【大　阪】薮下隆幸、中塚富佐子、小薮律子【岡　山】渡辺まどか、瀬島あずさ、加内梨穂、阿部由美子【広　島】木下しのぶ、塩屋正子

【12月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

12月14日(土)　常務理事会

機関誌送付先各位

機関誌：チーム内回覧のお願い（機関誌専門委員会）

協会機関誌は、大会報告を始め種々の協会情報を掲載し年８回発行しております。
送付先は、各チーム登録の監督・指導者等となっておりますが、指導者のみならず、選手にも読んで戴きたい記事も在りますので、チーム内の選手にも是非回覧戴ければと存じます。

【大会】……………………………………………………

12月6日(金)～ 22日(日)
第21回女子世界選手権（セルビア・ベオグラード）

12月23日(月)～ 26日(木)
JOCジュニアオリンピックカップ
……………………………………（福島県・福島市）

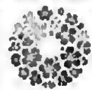
12月24日(火)～ 28日(土)
第65回全日本総合選手権（愛知県・名古屋市）

HAND BALL CONTENTS Dec.

asics
sound mind, sound body

うまくなりたいと思ったら、
言い訳しないことだ。

BETTER YOUR BEST
WITH ASICS.COM

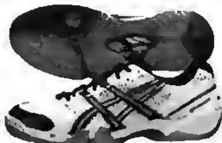


asics
TOKYO 2020
オフィシャルパートナー
(スポーツ用品)

©JHA2012年ハンドボール日本代表

グリップ性に優れたハイレスポンスモデル。

GEL-DOMAIN THH530
¥11,550(本体 ¥11,000)


ホワイト×ブラック(0190)

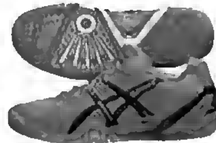

レッド×ブラック(2390)


内側/レッド×ブラック(2390)

安定性とフィット性が融合したハイスペックモデル。

GELBLAST 4 THH528
¥13,440(本体 ¥12,800)


ブラック×ネオンオレンジ(9030)


フラッシュオレンジ×ブラック(3090)

●表示価格はすべて消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜き本体価格です。●商品についてのお問い合わせは、0120-068-806(携帯・PHSからもおかけいただけます) asics.com



（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第五四〇号
平成二十五年十一月二十六日印刷
平成二十五年十二月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人　川上憲太
定価　年間三三〇〇円